

0001基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：基礎

問題

「解剖・生理」の心臓解剖の対応を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：房室弁と血流方向を説明できる：僧帽弁  
イ：収縮期と拡張期を区別できる：心室が弛緩し、主に血液を受け入れる時期である  
ウ：吸気時の呼吸筋と圧変化を整理する：収縮して拳上し、胸腔容積を減少させる  
エ：肺胞の主要機能を説明できる：赤血球を産生する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。僧帽弁は左心房と左心室の間にある左房室弁である。  
イ：この対応は不適切である。これは主として拡張期の説明である。  
ウ：この対応は不適切である。収縮時には下降し胸腔容積は増える。  
エ：この対応は不適切である。赤血球産生は主に骨髄で行われる。

総合解説：心臓の4弁は血流を一方向に保つ。左房室弁が僧帽弁、右房室弁が三尖弁である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0002基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：基礎

問題

「解剖・生理」について収縮期と拡張期を区別できるために、関連概念を整理した。正しい対応はどれか。

ア：吸気時の呼吸筋と圧変化を整理する：収縮して拳上し、胸腔容積を減少させる  
イ：収縮期と拡張期を区別できる：心室が収縮し、血液を動脈側へ駆出する時期である  
ウ：肺胞の主要機能を説明できる：赤血球を産生する  
エ：ADHの作用を説明できる：膵β細胞からインスリンを分解する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。収縮時には下降し胸腔容積は増える。  
イ：この対応は適切である。収縮期は心室圧が上昇し、半月弁が開いて血液が駆出される時期である。  
ウ：この対応は不適切である。赤血球産生は主に骨髄で行われる。  
エ：この対応は不適切である。ADHの主要作用ではない。

総合解説：収縮期は心室収縮・駆出、拡張期は心室弛緩・充満が中心となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0003基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：標準

問題

解剖・生理の学習で呼吸力学の判断を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

ア：肺胞の主要機能を説明できる：肺胞気と肺毛細血管血との間で酸素と二酸化炭素を交換する  
イ：ADHの作用を説明できる：腎での水再吸収を増加させる  
ウ：インスリンの分泌部位と作用を整理する：膵β細胞からのインスリン分泌が増え、血糖を下げる方向に働く  
エ：吸気時の呼吸筋と圧変化を整理する：弛緩して下降し、胸腔容積を増加させる

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。肺胞はガス交換の主要部位である。  
イ：この対応は正しい。ADHは腎集合管などで水再吸収を促進し、体液浸透圧の調節に関与する。  
ウ：この対応は正しい。インスリンは膵β細胞から分泌され、末梢での糖利用や貯蔵を促進して血糖を低下させる。  
エ：この対応が誤りである。下降は収縮によって起こる。

総合解説：安静吸気の主働筋は横隔膜で、収縮→下降→胸腔容積増加→肺胞内圧低下という流れをとる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0004基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：標準

問題

「解剖・生理」に関する知識を横断して確認する。肺胞の主要機能を説明できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：肺胞の主要機能を説明できる：血液中の尿素を濾過する  
イ：ADHの作用を説明できる：腎での水再吸収を増加させる  
ウ：インスリンの分泌部位と作用を整理する：膵β細胞からのインスリン分泌が増え、血糖を下げる方向に働く  
エ：腎の内分泌機能を説明できる：エリスロポエチンを産生し、赤血球産生を促す

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。尿素の濾過は腎で行われる。  
イ：この対応は正しい。ADHは腎集合管などで水再吸収を促進し、体液浸透圧の調節に関与する。  
ウ：この対応は正しい。インスリンは膵β細胞から分泌され、末梢での糖利用や貯蔵を促進して血糖を低下させる。  
エ：この対応は正しい。腎はエリスロポエチンを産生し、骨髄での赤血球産生を促進する。

総合解説：呼吸器系では肺胞がガス交換を担い、酸素を取り込み二酸化炭素を排出する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0005基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：基礎

問題

「解剖・生理」の内分泌と腎の対応を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：インスリンの分泌部位と作用を整理する：副甲状腺ホルモン分泌が増え、血糖を直接低下させる  
イ：腎の内分泌機能を説明できる：胆汁を産生する  
ウ：神経筋接合部の伝達物質を説明できる：ドパミン  
エ：ADHの作用を説明できる：腎での水再吸収を増加させる

答え・解説正答：エ

ア：この対応は不適切である。副甲状腺ホルモンは主にカルシウム代謝を調節する。  
イ：この対応は不適切である。胆汁は肝臓で産生される。  
ウ：この対応は不適切である。ドパミンは中枢神経系で重要だが、骨格筋神経筋接合部の主要伝達物質ではない。  
エ：この対応は適切である。ADHは腎集合管などで水再吸収を促進し、体液浸透圧の調節に関与する。

総合解説：ADHは高浸透圧や循環血液量低下などで分泌が促され、腎で水を保持する方向に働く。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0006基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：標準

問題

「解剖・生理」についてインスリンの分泌部位と作用を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：インスリンの分泌部位と作用を整理する：膵α細胞からのグルカゴン分泌が増え、血糖を下げる  
イ：腎の内分泌機能を説明できる：エリスロポエチンを産生し、赤血球産生を促す  
ウ：神経筋接合部の伝達物質を説明できる：アセチルコリン  
エ：二酸化炭素と酸塩基平衡の関係を整理する：水素イオン濃度が上昇し、pHは低下する

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。グルカゴンは主として血糖を上げる方向に働く。  
イ：この対応は正しい。腎はエリスロポエチンを産生し、骨髄での赤血球産生を促進する。  
ウ：この対応は正しい。神経筋接合部では運動神経終末からアセチルコリンが放出され、筋終板の受容体に作用する。  
エ：この対応は正しい。CO2増加は炭酸・水素イオン生成を増やし、呼吸性アシドーシス方向に働く。

総合解説：血糖上昇時はインスリンが優位となり、空腹時はグルカゴンなどが血糖維持に働く。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0007基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：標準

問題

解剖・生理の学習で腎機能の識別を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

ア：神経筋接合部の伝達物質を説明できる：アセチルコリン  
イ：腎の内分泌機能を説明できる：インスリンを主に産生する  
ウ：二酸化炭素と酸塩基平衡の関係を整理する：水素イオン濃度が上昇し、pHは低下する  
エ：自律神経系の基本作用を区別する：副交感神経系

答え・解説正答：イ

ア：この対応は正しい。神経筋接合部では運動神経終末からアセチルコリンが放出され、筋終板の受容体に作用する。  
イ：この対応が誤りである。インスリンは膵β細胞から分泌される。  
ウ：この対応は正しい。CO2増加は炭酸・水素イオン生成を増やし、呼吸性アシドーシス方向に働く。  
エ：この対応は正しい。副交感神経系は安静・消化時に優位となり、消化活動促進や心拍数低下に関与する。

総合解説：腎は濾過・体液調節だけでなく、エリスロポエチン産生など内分泌機能も担う。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0008基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：基礎

問題

「解剖・生理」に関する知識を横断して確認する。神経筋接合部の伝達物質を説明できるうえで適切な対応はどれか。

ア：二酸化炭素と酸塩基平衡の関係を整理する：血中重炭酸の存在に関係なく必ずpHが7.60以上になる  
イ：神経筋接合部の伝達物質を説明できる：アセチルコリン  
ウ：自律神経系の基本作用を区別する：錐体路  
エ：腎の恒常性維持機能を統合して整理する：肺胞換気と二酸化炭素排出

答え・解説正答：イ

ア：この対応は不適切である。代償機構や程度によって変化し、必ず高度アルカレミアになるわけではない。  
イ：この対応は適切である。神経筋接合部では運動神経終末からアセチルコリンが放出され、筋終板の受容体に作用する。  
ウ：この対応は不適切である。錐体路は随意運動に関わる中枢運動路で、自律神経系の区分ではない。  
エ：この対応は不適切である。これは主に呼吸器系の機能である。

総合解説：随意運動では運動神経活動がアセチルコリン放出を介して骨格筋収縮へ変換される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0009基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：標準

問題

「解剖・生理」の酸塩基の方向判断を確認する。次の対応のうち、誤っているものはどれか。

ア：自律神経系の基本作用を区別する：副交感神経系  
イ：腎の恒常性維持機能を統合して整理する：水・電解質調節と酸塩基平衡の維持  
ウ：過換気と酸塩基平衡を臨床的に判断する：呼吸性アルカローシス方向の変化  
エ：二酸化炭素と酸塩基平衡の関係を整理する：水素イオン濃度が低下し、pHは上昇する

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。副交感神経系は安静・消化時に優位となり、消化活動促進や心拍数低下に関与する。  
イ：この対応は正しい。腎は水・電解質の調節と長期的な酸塩基平衡維持に重要である。  
ウ：この対応は正しい。過換気でCO2排出が増えると血中CO2が低下し、pHは上昇方向へ動く。  
エ：この対応が誤りである。CO2増加時は逆方向である。

総合解説：CO2は炭酸水素緩衝系を通じてpHに影響する。CO2貯留は酸性側、CO2低下はアルカリ側へ働く。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0010基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：応用

問題

「解剖・生理」の自律神経の比較について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア：自律神経系の基本作用を区別する：副交感神経系 / 腎の恒常性維持機能を統合して整理する：水・電解質調節と酸塩基平衡の維持  
イ：過換気と酸塩基平衡を臨床的に判断する：呼吸性アシドーシス方向の変化 / 房室弁と血流方向を説明できる：大動脈弁  
ウ：収縮期と拡張期を区別できる：心室が収縮し、血液を動脈側へ駆出する時期である / 吸気時の呼吸筋と圧変化を整理する：弛緩して拳上し、肺内圧を低下させる  
エ：肺胞の主要機能を説明できる：吸気時に声帯を内転させる / ADHの作用を説明できる：腎での水再吸収を増加させる

答え・解説正答：ア

ア：とも正しい。副交感神経系は安静・消化時に優位となり、消化活動促進や心拍数低下に関与する。腎は水・電解質の調節と長期的な酸塩基平衡維持に重要である。  
イ：に誤りを含む。呼吸性アシドーシスは通常CO2貯留で生じる。大動脈弁は左心室と大動脈の間にある。  
ウ：は正しいがに誤りがある。弛緩・拳上は主に呼気方向に働き、肺内圧は相対的に上昇する。  
エ：に誤りがある。声帯運動は喉頭筋とその神経支配による。は正しい。

総合解説：自律神経は交感神経と副交感神経を中心に内臓機能を調節する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0011基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：標準

問題

解剖・生理の学習で臓器機能の複合判断を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

ア：過換気と酸塩基平衡を臨床的に判断する：呼吸性アルカローシス方向の変化  
イ：房室弁と血流方向を説明できる：僧帽弁  
ウ：腎の恒常性維持機能を統合して整理する：声帯振動と語音弁別  
エ：収縮期と拡張期を区別できる：心室が収縮し、血液を動脈側へ駆出する時期である

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。過換気でCO2排出が増えると血中CO2が低下し、pHは上昇方向へ動く。  
イ：この対応は正しい。僧帽弁は左心房と左心室の間にある左房室弁である。  
ウ：この対応が誤りである。これらは腎機能ではない。  
エ：この対応は正しい。収縮期は心室圧が上昇し、半月弁が開いて血液が駆出される時期である。

総合解説：腎は濾過・排泄に加え、水・電解質・浸透圧・酸塩基平衡を調節する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0012基礎医学 > 解剖・生理 | 難易度：応用

問題

「解剖・生理」について過換気と酸塩基平衡を臨床的に判断するため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア：収縮期と拡張期を区別できる：心室が弛緩し、主に血液を受け入れる時期である / 吸気時の呼吸筋と圧変化を整理する：収縮して挙上し、胸腔容積を減少させる  
イ：肺胞の主要機能を説明できる：肺胞気と肺毛細血管血との間で酸素と二酸化炭素を交換する / ADHの作用を説明できる：腎での水再吸収を抑制する  
ウ：過換気と酸塩基平衡を臨床的に判断する：呼吸性アルカローシス方向の変化 / 房室弁と血流方向を説明できる：僧帽弁  
エ：インスリンの分泌部位と作用を整理する：ADH分泌が増え、筋への糖取り込みを直接促進する / 腎の内分泌機能を説明できる：エリスロポエチンを産生し、赤血球産生を促す

答え・解説正答：ウ

ア：に誤りを含む。これは主として拡張期の説明である。収縮時には下降し胸腔容積は増える。  
イ：は正しいがに誤りがある。ADHは水再吸収を促進する。  
ウ：とも正しい。過換気でCO2排出が増えると血中CO2が低下し、pHは上昇方向へ動く。僧帽弁は左心房と左心室の間にある左房室弁である。  
エ：に誤りがある。ADHの主作用は体液調節である。は正しい。

総合解説：換気量とCO2は逆方向に変化しやすく、過換気ではCO2低下から呼吸性アルカローシス方向となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0013基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：基礎

問題

「病理・医学概論」の炎症細胞の識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：壊死とアポトーシスを区別できる：アポトーシスでは必ず細胞膜が早期に破綻して強い炎症が起こる  
イ：虚血性壊死の基本型を説明できる：脂肪壊死  
ウ：急性炎症の主要細胞を説明できる：好中球  
エ：悪性腫瘍の基本性質を整理する：血液やリンパを介した進展は起こらない

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は不適切である。アポトーシスでは膜は比較的保たれ、炎症は起こりにくい。  
イ：この対応は不適切である。脂肪壊死は膵炎や脂肪組織障害などでみられる。  
ウ：この対応は適切である。急性炎症では好中球が早期の主要な浸潤細胞となる。  
エ：この対応は不適切である。悪性腫瘍は血行性・リンパ行性などに転移し得る。

総合解説：炎症の細胞像は時間経過で変化するが、急性炎症の初期では好中球が代表的である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0014基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：標準

問題

「病理・医学概論」について壊死とアポトーシスを区別するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：壊死とアポトーシスを区別できる：壊死とアポトーシスは形態学的にも機序的にも完全に同一である  
イ：虚血性壊死の基本型を説明できる：凝固壊死  
ウ：悪性腫瘍の基本性質を整理する：周囲組織へ浸潤し、遠隔部位へ転移することがある  
エ：虚血性細胞障害の機序を統合できる：ATP産生低下 → Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>ポンプ機能低下 → 細胞内Na<sup>+</sup>・水増加 → 細胞腫脹

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。両者は典型像と機序が異なる。  
イ：この対応は正しい。虚血に伴う壊死は多くの実質臓器で凝固壊死となる。  
ウ：この対応は正しい。悪性腫瘍は浸潤・転移能を持ち得る。  
エ：この対応は正しい。虚血では酸化的リン酸化が障害されATPが減少し、イオンポンプ障害から細胞腫脹が起こる。

総合解説：壊死は膜破綻・細胞腫脹・炎症を伴いやすく、アポトーシスは制御された細胞死で膜が保たれやすい。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0015

基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：基礎

問題  
病理・医学概論の学習で壊死型の識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：悪性腫瘍の基本性質を整理する：血液やリンパを介した進展は起こらない  
イ：虚血性細胞障害の機序を統合できる：ミトコンドリア機能亢進 → 酸素消費低下 → ATP蓄積  
ウ：虚血性壊死の基本型を説明できる：凝固壊死  
エ：血栓と塞栓の概念を区別できる：血管外にできた皮下血腫だけを指す

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は不適切である。悪性腫瘍は血行性・リンパ行性などに転移し得る。  
イ：この対応は不適切である。虚血ではミトコンドリアのATP産生が障害される。  
ウ：この対応は適切である。虚血に伴う壊死は多くの実質臓器で凝固壊死となる。  
エ：この対応は不適切である。血栓は血管内・心腔内の凝固塊を指す。

総合解説：虚血性障害では臓器により壊死形態が異なり、脳では液化壊死が典型的である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0016

基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：標準

問題  
「病理・医学概論」に関する知識を横断して確認する。悪性腫瘍の基本性質を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：悪性腫瘍の基本性質を整理する：周囲組織へ浸潤せず、転移もしない  
イ：虚血性細胞障害の機序を統合できる：ATP産生低下 → Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>ポンプ機能低下 → 細胞内Na<sup>+</sup>・水増加 → 細胞腫脹  
ウ：血栓と塞栓の概念を区別できる：生体内の血管内や心腔内で血液成分が凝固して形成される塊である  
エ：創傷治癒の基本相を把握する：止血と炎症反応

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。これは良性腫瘍の基本的特徴である。  
イ：この対応は正しい。虚血では酸化的リン酸化が障害されATPが減少し、イオンポンプ障害から細胞腫脹が起こる。  
ウ：この対応は正しい。血栓は生体内の循環系で形成される凝固塊である。  
エ：この対応は正しい。創傷後は止血が起こり、その後の炎症・増殖・成熟へと続く。

総合解説：悪性腫瘍では局所浸潤と遠隔転移が重要な特徴であり、良性腫瘍との大きな違いとなる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0017基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：応用

問題

病理・医学概論の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：虚血性細胞障害の機序を統合できる：ATP産生低下 → Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>ポンプ機能低下 → 細胞内Na<sup>+</sup>・水増加 → 細胞腫脹 / 血栓と塞栓の概念を区別できる：生体内の血管内や心腔内で血液成分が凝固して形成される塊である

イ：創傷治癒の基本相を把握する：瘢痕の成熟のみが直ちに完了する / 炎症の局所徴候を説明できる：リンパ流が消失するため

ウ：良性・悪性腫瘍の違いを症例から判断する：悪性腫瘍で、転移を生じている可能性が高い / 炎症反応の生体防御としての意義を整理する：炎症は感染症にだけ起こり、外傷や化学刺激では起こらない

エ：急性炎症の主要細胞を説明できる：形質細胞 / 壊死とアポトーシスを区別できる：壊死では細胞膜破綻に伴い周囲に炎症が生じやすい

0018基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：標準

問題

「病理・医学概論」について血栓と塞栓の概念を区別するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：創傷治癒の基本相を把握する：止血と炎症反応

イ：血栓と塞栓の概念を区別できる：必ず細菌のみから構成される

ウ：炎症の局所徴候を説明できる：局所血管拡張により血流が増加するため

エ：良性・悪性腫瘍の違いを症例から判断する：悪性腫瘍で、転移を生じている可能性が高い

答え・解説正答：ア

ア：とも正しい。虚血では酸化的リン酸化が障害されATPが減少し、イオンポンプ障害から細胞腫脹が起こる。血栓は生体内の循環系で形成される凝固塊である。

イ：に誤りを含む。成熟・リモデリングは後期の過程である。リンパ系変化はあるが発赤・熱感の主因ではない。

ウ：は正しいがに誤りがある。外傷や化学物質などでも炎症は起こる。

エ：に誤りがある。形質細胞は抗体産生に関わり、慢性炎症などでみられる。は正しい。

総合解説：虚血性細胞障害ではエネルギー不足がイオン恒常性の破綻を招き、持続すると不可逆性障害・壊死へ進む。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：イ

ア：この対応は正しい。創傷後は止血が起こり、その後の炎症・増殖・成熟へと続く。

イ：この対応が誤りである。血栓は主として血小板、フィブリン、血球などからなる。

ウ：この対応は正しい。急性炎症では血管拡張により局所血流が増え、発赤・熱感が生じる。

エ：この対応は正しい。浸潤と遠隔転移は悪性腫瘍の重要な性質である。

総合解説：血栓は形成部位で生じる凝固塊で、血栓の一部が遊離して塞栓子となる場合がある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0019基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：基礎

問題

病理・医学概論の学習で治癒過程の識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：創傷治癒の基本相を把握する：止血と炎症反応  
イ：炎症の局所徴候を説明できる：リンパ流が消失するため  
ウ：良性・悪性腫瘍の違いを症例から判断する：良性腫瘍に特有の所見である  
エ：炎症反応の生体防御としての意義を整理する：炎症は常に有害で、生体防御上の役割はない

答え・解説正答：ア

ア：この対応は適切である。創傷後は止血が起こり、その後の炎症・増殖・成熟へと続く。  
イ：この対応は不適切である。リンパ系変化はあるが発赤・熱感の主因ではない。  
ウ：この対応は不適切である。良性腫瘍は通常、浸潤・転移をしない。  
エ：この対応は不適切である。炎症は重要な防御反応でもある。

総合解説：創傷治癒は止血、炎症、増殖、成熟・リモデリングの連続した過程として理解する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0020基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：標準

問題

「病理・医学概論」に関する知識を横断して確認する。炎症の局所徴候を説明できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：良性・悪性腫瘍の違いを症例から判断する：悪性腫瘍で、転移を生じている可能性が高い  
イ：炎症反応の生体防御としての意義を整理する：組織障害や感染に対して防御・修復反応を起こす一方、過剰・持続すると組織障害にもなり得る  
ウ：炎症の局所徴候を説明できる：赤血球産生が局所で急増するため  
エ：急性炎症の主要細胞を説明できる：好中球

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。浸潤と遠隔転移は悪性腫瘍の重要な性質である。  
イ：この対応は正しい。炎症は感染制御や修復に有用だが、慢性化や過剰反応は病態形成にも関与する。  
ウ：この対応が誤りである。局所で赤血球が新生されることが主因ではない。  
エ：この対応は正しい。急性炎症では好中球が早期の主要な浸潤細胞となる。

総合解説：炎症の古典的徴候には発赤、熱感、腫脹、疼痛、機能障害があり、血管反応が関与する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0021基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：応用

問題

「病理・医学概論」について良性・悪性腫瘍の違いを症例から判断するため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 良性・悪性腫瘍の違いを症例から判断する：悪性腫瘍で、転移を生じている可能性が高い / 炎症反応の生体防御としての意義を整理する：組織障害や感染に対して防御・修復反応を起こす一方、過剰・持続すると組織障害にもなり得る

イ： 急性炎症の主要細胞を説明できる：赤血球 / 壊死とアポトーシスを区別できる：壊死とアポトーシスは形態学的にも機序的にも完全に同一である

ウ： 虚血性壊死の基本型を説明できる：凝固壊死 / 悪性腫瘍の基本性質を整理する：血液やリンパを介した進展は起こらない

エ： 虚血性細胞障害の機序を統合できる：ミトコンドリア機能亢進 → 酸素消費低下 → ATP蓄積 / 血栓と塞栓の概念を区別できる：生体内の血管内や心腔内で血液成分が凝固して形成される塊である

答え・解説正答：ア

ア： とも正しい。 浸潤と遠隔転移は悪性腫瘍の重要な性質である。 炎症は感染制御や修復に有用だが、慢性化や過剰反応は病態形成にも関与する。

イ： に誤りを含む。 赤血球は酸素運搬を担い、炎症の主要白血球ではない。 両者は典型像と機序が異なる。

ウ： は正しいが に誤りがある。 悪性腫瘍は血行性・リンパ行性などに転移し得る。

エ： に誤りがある。 虚血ではミトコンドリアのATP産生が障害される。 は正しい。

総合解説：転移とは原発部位のがん細胞が血流やリンパ流などを介して別部位に新たな腫瘍を形成する現象である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0022基礎医学 > 病理・医学概論 | 難易度：標準

問題

「病理・医学概論」について炎症反応の生体防御としての意義を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：急性炎症の主要細胞を説明できる：好中球

イ：壊死とアポトーシスを区別できる：壊死では細胞膜破綻に伴い周囲に炎症が生じやすい

ウ：炎症反応の生体防御としての意義を整理する：炎症が起これば必ず数分以内に完全治癒する

エ：虚血性壊死の基本型を説明できる：凝固壊死

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。急性炎症では好中球が早期の主要な浸潤細胞となる。

イ：この対応は正しい。壊死では細胞内容物が漏出し、炎症反応を起こしやすい。

ウ：この対応が誤りである。経過は原因や程度により異なる。

エ：この対応は正しい。虚血に伴う壊死は多くの実質臓器で凝固壊死となる。

総合解説：炎症は防御と修復のための反応であるが、制御されない炎症は慢性疾患や組織障害につながる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0023基礎医学 > 神経系の基礎 | 難易度：基礎

問題

神経系の基礎の学習で神経系区分の定義を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：第VIII脳神経の機能を説明できる：咀嚼筋を運動支配する  
イ：舌運動の主要脳神経を整理する：前庭蝸牛神経（第VIII脳神経）  
ウ：三叉神経の混合神経としての機能を把握する：舌筋すべての運動だけを支配する  
エ：中枢神経系と末梢神経系を区別できる：脳と脊髄

答え・解説正答：エ

ア：この対応は不適切である。咀嚼筋は主に三叉神経第3枝の運動線維が支配する。  
イ：この対応は不適切である。前庭蝸牛神経は聴覚・平衡に関わる。  
ウ：この対応は不適切である。舌筋運動は主にXIIが担う。  
エ：この対応は適切である。中枢神経系は脳と脊髄から構成される。

総合解説：神経系は中枢神経系と末梢神経系に大別される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0024基礎医学 > 神経系の基礎 | 難易度：標準

問題

「神経系の基礎」に関する知識を横断して確認する。第VIII脳神経の機能を説明できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：舌運動の主要脳神経を整理する：舌下神経（第XII脳神経）  
イ：三叉神経の混合神経としての機能を把握する：顔面の感覚と咀嚼筋の運動に関与する  
ウ：第VIII脳神経の機能を説明できる：舌の随意運動を支配する  
エ：上位・下位運動ニューロン徴候を区別する：下位運動ニューロン

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。舌下神経は舌筋の主要な運動神経である。  
イ：この対応は正しい。三叉神経は混合神経で、顔面感覚と咀嚼筋運動などを担う。  
ウ：この対応が誤りである。舌の主要な運動は第XII脳神経が担う。  
エ：この対応は正しい。下位運動ニューロン障害では筋萎縮、線維束性収縮、筋緊張低下、腱反射低下などがみられやすい。

総合解説：第VIII脳神経は純感覚性で、聴覚および平衡に関わる情報を中枢へ伝える。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0025

基礎医学 > 神経系の基礎 | 難易度：標準

問題

「神経系の基礎」の脳神経機能の対応を確認する。次の対応のうち、誤っているものはどれか。

ア：三叉神経の混合神経としての機能を把握する：顔面の感覚と咀嚼筋の運動に関与する  
イ：上位・下位運動ニューロン徴候を区別する：下位運動ニューロン  
ウ：舌運動の主要脳神経を整理する：嗅神経（第Ⅰ脳神経）  
エ：迷走神経の臨床的役割を説明できる：嚔声や嚔下障害

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。三叉神経は混合神経で、顔面感覚と咀嚼筋運動などを担う。  
イ：この対応は正しい。下位運動ニューロン障害では筋萎縮、線維束性収縮、筋緊張低下、腱反射低下などがみられやすい。  
  
ウ：この対応が誤りである。嗅神経は嗅覚に関わる。  
エ：この対応は正しい。迷走神経は咽頭・喉頭の運動や感覚などに関与し、障害で嚔声・嚔下障害を生じ得る。  
  
総合解説：発話・嚔下に関わる舌運動では舌下神経機能が重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0026

基礎医学 > 神経系の基礎 | 難易度：基礎

問題

「神経系の基礎」について三叉神経の混合神経としての機能を把握するために、関連概念を整理した。正しい対応はどれか。

ア：三叉神経の混合神経としての機能を把握する：顔面の感覚と咀嚼筋の運動に関与する  
イ：上位・下位運動ニューロン徴候を区別する：視覚伝導路のみ  
ウ：迷走神経の臨床的役割を説明できる：下肢の皮膚感覚消失のみ  
エ：脳神経障害から病変を推定できる：第Ⅰ脳神経

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。三叉神経は混合神経で、顔面感覚と咀嚼筋運動などを担う。  
イ：この対応は不適切である。視覚伝導路障害だけではこれらの運動徴候を説明しにくい。  
ウ：この対応は不適切である。迷走神経の主領域ではない。  
エ：この対応は不適切である。Ⅰは嗅覚を担う。  
  
総合解説：三叉神経は感覚線維に加えて運動線維も持つ混合神経である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0027

基礎医学 > 神経系の基礎 | 難易度：応用

問題

「神経系の基礎」について上位・下位運動ニューロン徴候を区別するため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 脳神経障害から病変を推定できる：第I脳神経 / 感覚神経と運動神経を区別できる：遠心性（efferent）  
イ： 中枢神経系と末梢神経系を区別できる：脳と脊髄 / 第VIII脳神経の機能を説明できる：舌の随意運動を支配する  
ウ： 舌運動の主要脳神経を整理する：嗅神経（第I脳神経） / 三叉神経の混合神経としての機能を把握する：顔面の感覚と咀嚼筋の運動に関与する  
エ： 上位・下位運動ニューロン徴候を区別する：下位運動ニューロン / 迷走神経の臨床的役割を説明できる：嚔声や嚔下障害

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 IIは嗅覚を担う。 遠心性線維は中枢から効果器へ命令を伝える。  
イ： は正しいが に誤りがある。 舌の主要な運動は第XII脳神経が担う。  
ウ： に誤りがある。 嗅神経は嗅覚に関わる。 は正しい。  
エ： とも正しい。 下位運動ニューロン障害では筋萎縮、線維束性収縮、筋緊張低下、腱反射低下などがみられやすい。 迷走神経は咽頭・喉頭の運動や感覚などに関与し、障害で嚔声・嚔下障害を生じ得る。

総合解説：運動ニューロン障害では、上位は痙性・反射亢進、下位は弛緩性・筋萎縮・反射低下が基本となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0028

基礎医学 > 神経系の基礎 | 難易度：標準

問題

「神経系の基礎」に関する知識を横断して確認する。迷走神経の臨床的役割を説明できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：脳神経障害から病変を推定できる：第XII脳神経  
イ：感覚神経と運動神経を区別できる：求心性（afferent）  
ウ：中枢神経系と末梢神経系を区別できる：脳と脊髄  
エ：迷走神経の臨床的役割を説明できる：嗅覚消失のみ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。舌下神経障害では舌運動障害が起こる。聴覚が保たれていても矛盾しない。  
イ：この対応は正しい。感覚情報を受容器から中枢へ伝える線維は求心性線維と呼ばれる。  
ウ：この対応は正しい。中枢神経系は脳と脊髄から構成される。  
エ：この対応が誤りである。嗅覚は嗅神経が担う。

総合解説：迷走神経は発声・嚔下に重要な咽頭・喉頭機能と関係するため、言語聴覚領域でも重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0029基礎医学 > 神経系の基礎 | 難易度：応用

問題

神経系の基礎の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：脳神経障害から病変を推定できる：第XII脳神経 / 感覚神経と運動神経を区別できる：求心性（afferent）

イ：中枢神経系と末梢神経系を区別できる：脳神経と脊髄神経のみ / 第VIII脳神経の機能を説明できる：顔面表情筋を運動支配する

ウ：舌運動の主要脳神経を整理する：舌下神経（第XII脳神経） / 三叉神経の混合神経としての機能を把握する：嗅覚と視覚を同時に伝える

エ：上位・下位運動ニューロン徴候を区別する：上位運動ニューロンのみ / 迷走神経の臨床的役割を説明できる：嘔声や嚥下障害

答え・解説正答：ア

ア：とも正しい。舌下神経障害では舌運動障害が起こる。聴覚が保たれていても矛盾しない。感覚情報を受容器から中枢へ伝える線維は求心性線維と呼ばれる。

イ：に誤りを含む。これらは主として末梢神経系に含まれる。表情筋は主に顔面神経が支配する。

ウ：は正しいがに誤りがある。嗅覚はI、視覚はIIが主に担う。

エ：に誤りがある。上位運動ニューロン障害では痙縮や腱反射亢進が典型的である。は正しい。

総合解説：症状から各脳神経の機能対応を逆引きできることが神経診察の基本である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0030基礎医学 > 神経系の基礎 | 難易度：標準

問題

「神経系の基礎」について感覚神経と運動神経を区別できるように関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：中枢神経系と末梢神経系を区別できる：脳と脊髄

イ：第VIII脳神経の機能を説明できる：聴覚と平衡感覚を伝える

ウ：舌運動の主要脳神経を整理する：舌下神経（第XII脳神経）

エ：感覚神経と運動神経を区別できる：交連性

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。中枢神経系は脳と脊髄から構成される。

イ：この対応は正しい。前庭蝸牛神経は感覚性脳神経で、蝸牛系と前庭系の情報を伝える。

ウ：この対応は正しい。舌下神経は舌筋の主要な運動神経である。

エ：この対応が誤りである。交連線維は左右の中枢構造を連絡する線維を指す。

総合解説：感覚は求心性、運動・自律の出力は遠心性という方向づけが基本である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0031

臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：基礎

問題

内科・小児科の学習で内科疾患の病態識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：2型糖尿病の基本病態を説明できる：インスリン抵抗性と相対的なインスリン分泌不全が関与する
- イ：低血糖を症候と検査から判断できる：Virchow三徴
- ウ：心不全の代表症状を整理する：片側難聴と眼振だけ
- エ：肺炎の基本病態を説明できる：必ず上気道だけに限局し肺実質には及ばない

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応は適切である。2型糖尿病では末梢組織のインスリン抵抗性とβ細胞機能低下が関与する。
- イ：この対応は不適切である。血栓形成の3要素を示す概念である。
- ウ：この対応は不適切である。前庭・聴覚系疾患を示唆する所見である。
- エ：この対応は不適切である。肺炎は肺実質の感染である。

総合解説：2型糖尿病は慢性高血糖を来す代謝疾患で、インスリン抵抗性と分泌能低下が中心となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0032

臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：標準

問題

「内科・小児科」に関する知識を横断して確認する。低血糖を症候と検査から判断できるうえで誤っている対応はどれか。

- ア：心不全の代表症状を整理する：息切れ、易疲労感、浮腫
- イ：肺炎の基本病態を説明できる：肺実質の感染・炎症により発熱、咳、呼吸症状などを生じ得る
- ウ：低血糖を症候と検査から判断できる：Cushing三徴
- エ：誤嚥性肺炎の成立機序を整理する：誤嚥性肺炎

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は正しい。心不全では心拍出低下やうっ血により息切れ、疲労、体液貯留・浮腫がみられる。
- イ：この対応は正しい。肺炎は肺実質の感染症で、重症度は軽症から集中治療を要するものまで幅がある。
- ウ：この対応が誤りである。頭蓋内圧亢進に関連する概念である。
- エ：この対応は正しい。口腔・咽頭由来の病原体を含む内容物が下気道に入ること誤嚥性肺炎が成立し得る。

総合解説：低血糖では自律神経症状や神経糖欠乏症状がみられ、客観的低血糖と補正後の改善を確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0033

臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：基礎

問題

「内科・小児科」の内科症状の識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：肺炎の基本病態を説明できる：必ず上気道だけに限局し肺実質には及ばない  
イ：心不全の代表症状を整理する：息切れ、易疲労感、浮腫  
ウ：誤嚥性肺炎の成立機序を整理する：自然気胸  
エ：小児脱水の循環徴候を判断できる：聴覚過敏

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。肺炎は肺実質の感染である。  
イ：この対応は適切である。心不全では心拍出低下やうっ血により息切れ、疲労、体液貯留・浮腫がみられる。  
ウ：この対応は不適切である。肺虚脱を来す病態で、誤嚥を原因とする肺炎ではない。  
エ：この対応は不適切である。循環所見を説明しない。

総合解説：心不全は構造的・機能的心障害により十分な循環を維持できず、肺うっ血や末梢浮腫を生じ得る。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0034

臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：標準

問題

「内科・小児科」について肺炎の基本病態を説明するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：誤嚥性肺炎の成立機序を整理する：誤嚥性肺炎  
イ：肺炎の基本病態を説明できる：原因に関係なく抗菌薬は一切不要である  
ウ：小児脱水の循環徴候を判断できる：脱水による循環血流量減少  
エ：発達マイルストーンの用途を整理する：発達の経過をモニターし、懸念があれば標準化された評価につなげる手がかりとなる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。口腔・咽頭由来の病原体を含む内容物が下気道に入ること誤嚥性肺炎が成立し得る。  
イ：この対応が誤りである。細菌性肺炎などでは抗菌薬が必要となり得る。  
ウ：この対応は正しい。頻脈や毛細血管再充満遅延は小児脱水で循環不全を示唆する所見である。  
エ：この対応は正しい。マイルストーンは発達の把握と相談のきっかけに有用だが、単独で診断するものではない。

総合解説：肺炎では呼吸状態・全身状態・原因を評価し、重症度に応じた管理が必要となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0035

臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：応用

問題

内科・小児科の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 発達マイルストーンの用途を整理する：標準化された発達スクリーニングを常に代替できる / Down症候群の遺伝学的基礎を説明できる：18番染色体の過剰による18トリソミー（Edwards症候群に典型）  
イ： 脳性麻痺の定義を症例から判断できる：脳性麻痺 / 小児の発達退行を重要所見として認識する：成長すれば必ず自然に戻ると説明して経過観察のみとする  
ウ： 2型糖尿病の基本病態を説明できる：ADH過剰だけで持続性高血糖が生じる / 低血糖を症候と検査から判断できる：Whipple三徴  
エ： 誤嚥性肺炎の成立機序を整理する：誤嚥性肺炎 / 小児脱水の循環徴候を判断できる：脱水による循環血液量減少

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 CDCもマイルストーン表は標準化スクリーニングの代替ではないとしている。 18トリソミーはEdwards症候群の代表的な染色体異常である。  
イ： は正しいが に誤りがある。 退行は重要な警告所見であり、原因評価が必要である。  
ウ： に誤りがある。 ADHは主に水代謝を調節する。 は正しい。  
エ： とも正しい。 口腔・咽頭由来の病原体を含む内容物が下気道に入ること誤嚥性肺炎が成立し得る。 頻脈や毛細血管再充満遅延は小児脱水で循環不全を示唆する所見である。

総合解説：誤嚥性肺炎は嚥下障害・意識障害・口腔衛生不良などと関連し、言語聴覚士にも重要な臨床病態である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0036

臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：標準

問題

「内科・小児科」に関する知識を横断して確認する。小児脱水の循環徴候を判断できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：発達マイルストーンの用途を整理する：発達の経過をモニターし、懸念があれば標準化された評価につなげる手がかりとなる  
イ：Down症候群の遺伝学的基礎を説明できる：21番染色体が1本多い21トリソミー（Down症候群で最も代表的）  
ウ：脳性麻痺の定義を症例から判断できる：脳性麻痺  
エ：小児脱水の循環徴候を判断できる：水分過剰のみ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。マイルストーンは発達の把握と相談のきっかけに有用だが、単独で診断するものではない。  
イ：この対応は正しい。Down症候群では21トリソミーが最も代表的である。  
ウ：この対応は正しい。脳性麻痺は発達中の脳に生じた非進行性の障害による運動・姿勢の永続的障害群である。  
エ：この対応が誤りである。所見はむしろ循環血液量減少を示唆する。

総合解説：小児では低血圧は遅れて出ることがあり、頻脈や末梢循環所見を早期に評価することが重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0037

臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：基礎

問題

「内科・小児科」の発達評価概念の識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：発達マイルストーンの用途を整理する：発達の経過をモニターし、懸念があれば標準化された評価につなげる手がかりとなる  
イ：Down症候群の遺伝学的基礎を説明できる：18番染色体の過剰による18トリソミー（Edwards症候群に典型）  
ウ：脳性麻痺の定義を症例から判断できる：急性一過性の末梢神経障害  
エ：小児の発達退行を重要所見として認識する：必ず脳性麻痺と診断する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。マイルストーンは発達の把握と相談のきっかけに有用だが、単独で診断するものではない。  
イ：この対応は不適切である。18トリソミーはEdwards症候群の代表的な染色体異常である。  
ウ：この対応は不適切である。永続的な発達性運動障害の説明に合わない。  
エ：この対応は不適切である。発達退行は脳性麻痺に典型的とはいえ、原因鑑別が必要である。

総合解説：マイルストーンは発達モニタリングの道具であり、異常が疑われる場合は適切なスクリーニング・評価へ進む。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0038

臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：標準

問題

「内科・小児科」についてDown症候群の遺伝学的基礎を説明できるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：脳性麻痺の定義を症例から判断できる：脳性麻痺  
イ：Down症候群の遺伝学的基礎を説明できる：13番染色体の過剰による13トリソミー（Patau症候群に典型）  
ウ：小児の発達退行を重要所見として認識する：単なる個人差と決めつけず、医学的評価を含めた精査を検討する  
エ：2型糖尿病の基本病態を説明できる：インスリン抵抗性と相対的なインスリン分泌不全が関与する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。脳性麻痺は発達中の脳に生じた非進行性の障害による運動・姿勢の永続的障害群である。  
イ：この対応が誤りである。13トリソミーはPatau症候群の代表的な染色体異常である。  
ウ：この対応は正しい。発達退行は通常の個人差だけでは説明せず、神経・代謝・遺伝などを含む評価が必要となることがある。  
エ：この対応は正しい。2型糖尿病では末梢組織のインスリン抵抗性とβ細胞機能低下が関与する。

総合解説：Down症候群では先天性心疾患、感覚障害、知的発達など多領域の評価が必要となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0039臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：応用

問題

「内科・小児科」について脳性麻痺の定義を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア：脳性麻痺の定義を症例から判断できる：脳性麻痺 / 小児の発達退行を重要所見として認識する：単なる個人差と決めつけず、医学的評価を含めた精査を検討する

イ：2型糖尿病の基本病態を説明できる：赤血球の破壊だけで高血糖が生じる / 低血糖を症候と検査から判断できる：Cushing三徴

ウ：心不全の代表症状を整理する：息切れ、易疲労感、浮腫 / 肺炎の基本病態を説明できる：必ず上気道だけに限局し肺実質には及ばない

エ：誤嚥性肺炎の成立機序を整理する：自然気胸 / 小児脱水の循環徴候を判断できる：脱水による循環血液量減少

0040臨床医学 > 内科・小児科 | 難易度：標準

問題

「内科・小児科」に関する知識を横断して確認する。小児の発達退行を重要所見として認識するうえで誤っている対応はどれか。

ア：2型糖尿病の基本病態を説明できる：インスリン抵抗性と相対的なインスリン分泌不全が関与する

イ：低血糖を症候と検査から判断できる：Whipple三徴

ウ：小児の発達退行を重要所見として認識する：発達マイルストーンを一切確認しない

エ：心不全の代表症状を整理する：息切れ、易疲労感、浮腫

答え・解説正答：ア

ア：とも正しい。脳性麻痺は発達中の脳に生じた非進行性の障害による運動・姿勢の永続的障害群である。発達退行は通常の個人差だけでは説明せず、神経・代謝・遺伝などを含む評価が必要となることがある。

イ：に誤りを含む。高血糖の主要機序ではない。頭蓋内圧亢進に関連する概念である。

ウ：は正しいがに誤りがある。肺炎は肺実質の感染である。

エ：に誤りがある。肺虚脱を来す病態で、誤嚥を原因とする肺炎ではない。は正しい。

総合解説：脳性麻痺では運動障害に加え、てんかん、摂食、コミュニケーション、感覚障害などを伴うことがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。2型糖尿病では末梢組織のインスリン抵抗性とβ細胞機能低下が関与する。

イ：この対応は正しい。症状、低血糖の確認、血糖補正で症状改善という組合せはWhipple三徴である。

ウ：この対応が誤りである。経過把握は重要である。

エ：この対応は正しい。心不全では心拍出低下やうっ血により息切れ、疲労、体液貯留・浮腫がみられる。

総合解説：脳性麻痺では原因脳病変は非進行性であり、明らかな発達退行は別疾患も含めた再評価の契機となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0041

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：基礎

問題

「神経・精神」の脳卒中の定義を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：急性脳卒中中で画像の目的を整理する：言語機能の障害型を確定する  
イ：Parkinson病の病理を整理する：視神経の網膜神経節細胞だけ  
ウ：ALSの上位・下位運動ニューロン徴候を整理する：必ず発症直後から完全な認知症のみを呈する  
エ：虚血性脳卒中中の病態を説明できる：血栓や塞栓などで脳血流が途絶し、局所脳組織が虚血に陥る

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。失語症評価は臨床的言語評価が必要で、CTだけで型を確定しない。  
イ：この対応は不適切である。Parkinson病の中心病態ではない。  
ウ：この対応は不適切である。主症状は運動障害であり、認知変化は一部にみられる。  
エ：この対応は適切である。虚血性脳卒中は血管閉塞により脳の一部への血流が低下・途絶して生じる。

総合解説：脳卒中は虚血性と出血性に大別され、突然の局在性神経症状を呈し得る。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0042

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：基礎

問題

「神経・精神」について急性脳卒中中で画像の目的を理解するために、関連概念を整理した。正しい対応はどれか。

ア：Parkinson病の病理を整理する：視神経の網膜神経節細胞だけ  
イ：ALSの上位・下位運動ニューロン徴候を整理する：必ず発症直後から完全な認知症のみを呈する  
ウ：重症筋無力症の機序を説明できる：脳血管の急性閉塞だけ  
エ：急性脳卒中中で画像の目的を整理する：頭蓋内出血の有無を迅速に評価する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。Parkinson病の中心病態ではない。  
イ：この対応は不適切である。主症状は運動障害であり、認知変化は一部にみられる。  
ウ：この対応は不適切である。これは虚血性脳卒中中の病態である。  
エ：この対応は適切である。単純CTは急性期に頭蓋内出血を除外・確認するため重要である。

総合解説：急性脳卒中では虚血と出血の鑑別が治療選択に直結するため、迅速な画像評価が必要となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0043

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：標準

問題

神経・精神の学習で神経変性疾患の対応を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

ア：ALSの上位・下位運動ニューロン徴候を整理する：上位運動ニューロン徴候と下位運動ニューロン徴候を併せて示し得る  
イ：重症筋無力症の機序を説明できる：神経筋接合部のシナプス後膜にあるアセチルコリン受容体などへの自己免疫反応  
ウ：てんかんの定義概念を整理する：非誘発性発作を生じる持続的素因を特徴とし、反復発作を来することが多い神経疾患である  
エ：Parkinson病の病理を整理する：蝸牛有毛細胞だけ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。ALSは上位・下位運動ニューロンの両方を障害する代表的疾患である。  
イ：この対応は正しい。自己抗体により神経筋伝達が障害され、易疲労性の筋力低下が生じる。  
ウ：この対応は正しい。てんかんは非誘発性発作を生じる持続的素因を特徴とする。一定条件では1回の非誘発性発作後でも再発リスク等から診断され得る。  
エ：この対応が誤りである。聴覚器の障害ではない。

総合解説：Parkinson病では無動・寡動、筋強剛、振戦、姿勢反射障害などに加え非運動症状もみられる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0044

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：標準

問題

「神経・精神」に関する知識を横断して確認する。ALSの上位・下位運動ニューロン徴候を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：重症筋無力症の機序を説明できる：神経筋接合部のシナプス後膜にあるアセチルコリン受容体などへの自己免疫反応  
イ：てんかんの定義概念を整理する：非誘発性発作を生じる持続的素因を特徴とし、反復発作を来することが多い神経疾患である  
ウ：ALSの上位・下位運動ニューロン徴候を整理する：症状は数時間で完全に消失する  
エ：せん妄の中核特徴を整理する：急性に発症し、注意・覚醒・認知の障害が時間帯によって変動する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。自己抗体により神経筋伝達が障害され、易疲労性の筋力低下が生じる。  
イ：この対応は正しい。てんかんは非誘発性発作を生じる持続的素因を特徴とする。一定条件では1回の非誘発性発作後でも再発リスク等から診断され得る。  
ウ：この対応が誤りである。進行性神経変性疾患である。  
エ：この対応は正しい。せん妄は急性発症・変動性・注意障害が重要な特徴である。

総合解説：ALSでは筋力低下、筋萎縮、線維束性収縮、痙縮などが混在し、構音・嚥下・呼吸にも影響し得る。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0045

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：基礎

問題

「神経・精神」の神経筋疾患の病態識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：重症筋無力症の機序を説明できる：神経筋接合部のシナプス後膜にあるアセチルコリン受容体などへの自己免疫反応  
イ：てんかんの定義概念を整理する：発熱時の単発けいれんをすべててんかんと呼ぶ  
ウ：せん妄の中核特徴を整理する：原因となる身体疾患や薬剤の評価は不要である  
エ：認知症とせん妄の時間経過を区別できる：数時間で発症し、注意障害が大きく変動する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。自己抗体により神経筋伝達が障害され、易疲労性の筋力低下が生じる。  
イ：この対応は不適切である。誘発性発作の単発だけではてんかと診断しない。  
ウ：この対応は不適切である。せん妄では基礎疾患・薬剤・感染・代謝異常などの原因評価が重要である。  
エ：この対応は不適切である。これはせん妄に典型的である。

総合解説：重症筋無力症では眼瞼下垂、複視、構音障害、嚥下障害などが活動により増悪することがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0046

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：標準

問題

「神経・精神」についててんかんの定義概念を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：せん妄の中核特徴を整理する：急性に発症し、注意・覚醒・認知の障害が時間帯によって変動する  
イ：てんかんの定義概念を整理する：脳波が正常ならてんかんは必ず否定できる  
ウ：認知症とせん妄の時間経過を区別できる：月～年単位で徐々に認知機能低下が進行する  
エ：統合失調症の症状群を識別できる：幻覚や妄想

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。せん妄は急性発症・変動性・注意障害が重要な特徴である。  
イ：この対応が誤りである。通常脳波が正常でもてんかんを完全には否定できない。  
ウ：この対応は正しい。認知症は一般に慢性・進行性の経過をとり、せん妄は急性・変動性が特徴である。  
エ：この対応は正しい。幻覚・妄想・思考障害は代表的な精神病症状である。

総合解説：てんかんの診断では発作の誘発性、再発リスク、臨床像、脳波や画像などを総合して判断する。反復発作は典型的だが、診断を「必ず2回以上」に限定しない。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0047

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：標準

問題

神経・精神の学習で精神症候の比較を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

ア：認知症とせん妄の時間経過を区別できる：月～年単位で徐々に認知機能低下が進行する  
イ：統合失調症の症状群を識別できる：幻覚や妄想  
ウ：せん妄の中核特徴を整理する：意識や注意は常に正常である  
エ：うつ病の中核症状を症例から判断できる：うつ病性障害を疑い、専門的評価につなげる

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。認知症は一般に慢性・進行性の経過をとり、せん妄は急性・変動性が特徴である。  
イ：この対応は正しい。幻覚・妄想・思考障害は代表的な精神病症状である。  
ウ：この対応が誤りである。せん妄では注意・覚醒の障害が重要である。  
エ：この対応は正しい。抑うつ気分または興味・喜びの低下が持続し生活機能を損なう場合、うつ病の評価が必要である。

総合解説：せん妄は可逆的要因を伴うことが多いため、急な認知変化を「認知症の進行」だけと決めつけない。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0048

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：基礎

問題

「神経・精神」に関する知識を横断して確認する。認知症とせん妄の時間経過を区別できるうえで適切な対応はどれか。

ア：統合失調症の症状群を識別できる：骨格筋の線維束性収縮  
イ：認知症とせん妄の時間経過を区別できる：月～年単位で徐々に認知機能低下が進行する  
ウ：うつ病の中核症状を症例から判断できる：せん妄と同一とみなす  
エ：Parkinson病の臨床徴候を整理する：弛緩性麻痺と腱反射消失だけ

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。運動ニューロン障害などでみられる所見である。  
イ：この対応は適切である。認知症は一般に慢性・進行性の経過をとり、せん妄は急性・変動性が特徴である。  
ウ：この対応は不適切である。せん妄は急性の注意・覚醒変動が中心である。  
エ：この対応は不適切である。末梢・下位運動ニューロン障害で典型的な組合せである。

総合解説：認知症患者にもせん妄が重なることがあるため、急性変化は別途評価する必要がある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0049

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：標準

問題

「神経・精神」の精神症状の分類を確認する。次の対応のうち、誤っているものはどれか。

ア：統合失調症の症状群を識別できる：末梢浮腫のみ  
イ：うつ病の中核症状を症例から判断できる：うつ病性障害を疑い、専門的評価につなげる  
ウ：Parkinson病の臨床徴候を整理する：動作緩慢（寡動）と筋強剛  
エ：急性認知変化の鑑別優先度を判断できる：認知症に重なったせん妄

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。心・腎疾患などでみられる身体所見である。  
イ：この対応は正しい。抑うつ気分または興味・喜びの低下が持続し生活機能を損なう場合、うつ病の評価が必要である。  
ウ：この対応は正しい。Parkinson病の代表的運動症状には動作緩慢、筋強剛、振戦などがある。  
エ：この対応は正しい。急性発症、変動性、注意障害、感染という誘因はせん妄を強く示唆する。

総合解説：統合失調症では精神病症状に加え、陰性症状や認知症状もみられ得る。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0050

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：応用

問題

神経・精神の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：急性認知変化の鑑別優先度を判断できる：認知症が数時間で自然に最終段階まで進行した / 虚血性脳卒中の病態を説明できる：聴覚器の機械的損傷だけで生じる  
イ：うつ病の中核症状を症例から判断できる：うつ病性障害を疑い、専門的評価につなげる / Parkinson病の臨床徴候を整理する：動作緩慢（寡動）と筋強剛  
ウ：急性脳卒中で画像の目的を整理する：頭蓋内出血の有無を迅速に評価する / Parkinson病の病理を整理する：末梢感覚神経だけ  
エ：ALSの上位・下位運動ニューロン徴候を整理する：感覚障害だけが進行し運動機能は保たれる / 重症筋無力症の機序を説明できる：神経筋接合部のシナプス後膜にあるアセチルコリン受容体などへの自己免疫反応

答え・解説

正答：イ

ア：に誤りを含む。認知症の通常の進行だけでは急性変動を説明しにくい。脳卒中の定義には当たらない。  
イ：とも正しい。抑うつ気分または興味・喜びの低下が持続し生活機能を損なう場合、うつ病の評価が必要である。Parkinson病の代表的運動症状には動作緩慢、筋強剛、振戦などがある。  
ウ：は正しいがに誤りがある。中枢の基底核回路・黒質系が重要である。  
エ：に誤りがある。ALSは主として運動ニューロン疾患である。は正しい。

総合解説：うつ病は気分・思考・睡眠・食欲・集中力などに影響し、一定期間持続して日常機能を障害する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0051

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：標準

問題

神経・精神の学習で神経症候の判断を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

ア：Parkinson病の臨床徴候を整理する：感覚障害だけが進行する  
イ：急性認知変化の鑑別優先度を判断できる：認知症に重なったせん妄  
ウ：虚血性脳卒中の病態を説明できる：血栓や塞栓などで脳血流が途絶し、局所脳組織が虚血に陥る  
エ：急性脳卒中中で画像の目的を整理する：頭蓋内出血の有無を迅速に評価する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。Parkinson病の主徴は運動系を中心とする。  
イ：この対応は正しい。急性発症、変動性、注意障害、感染という誘因はせん妄を強く示唆する。  
ウ：この対応は正しい。虚血性脳卒中は血管閉塞により脳の一部への血流が低下・途絶して生じる。  
エ：この対応は正しい。単純CTは急性期に頭蓋内出血を除外・確認するため重要である。

総合解説：Parkinson病では発声・構音にも影響し、声量低下や発話速度・明瞭度の問題を生じることがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0052

臨床医学 > 神経・精神 | 難易度：応用

問題

「神経・精神」の複合症例判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア：急性脳卒中中で画像の目的を整理する：言語機能の障害型を確定する / Parkinson病の病理を整理する：視神経の網膜神経節細胞だけ  
イ：ALSの上位・下位運動ニューロン徴候を整理する：上位運動ニューロン徴候と下位運動ニューロン徴候を併せて示し得る / 重症筋無力症の機序を説明できる：黒質ドパミン神経の脱落だけ  
ウ：てんかんの定義概念を整理する：失神と完全に同義である / せん妄の中核特徴を整理する：急性に発症し、注意・覚醒・認知の障害が時間帯によって変動する  
エ：急性認知変化の鑑別優先度を判断できる：認知症に重なったせん妄 / 虚血性脳卒中中の病態を説明できる：血栓や塞栓などで脳血流が途絶し、局所脳組織が虚血に陥る

答え・解説

正答：エ

ア：に誤りを含む。失語症評価は臨床的言語評価が必要で、CTだけで型を確定しない。Parkinson病の中心病態ではない。  
イ：は正しいがに誤りがある。これはParkinson病の代表病態である。  
ウ：に誤りがある。失神とてんかん発作は異なる病態である。は正しい。  
エ：とも正しい。急性発症、変動性、注意障害、感染という誘因はせん妄を強く示唆する。虚血性脳卒中は血管閉塞により脳の一部への血流が低下・途絶して生じる。

総合解説：既存認知症があっても急激な変化はせん妄を疑い、感染、薬剤、代謝異常など可逆的原因を評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0053

臨床医学 > リハビリ・形成外科 | 難易度：基礎

問題

「リハビリ・形成外科」のICF要素の識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：環境因子の具体例を判断できる：病理診断のみ  
イ：リハビリテーションの目的を整理する：障害が固定した人だけを対象とする  
ウ：ICFの基本構造を説明できる：心身機能・身体構造、活動、参加を相互に関連づけて捉える  
エ：多職種連携の必要性を説明できる：各職種が情報共有せず独立して介入するため

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。家族支援は診断名ではなく環境の調整である。  
イ：この対応は不適切である。急性・慢性を問わず機能制限のある人が対象となり得る。  
ウ：この対応は適切である。ICFは心身機能・身体構造、活動、参加と背景因子を含む枠組みである。  
エ：この対応は不適切である。多職種連携では情報共有と目標調整が重要である。

総合解説：ICFは疾病名と生活上の機能を分けて捉え、本人と環境の相互作用を含めて考える。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0054

臨床医学 > リハビリ・形成外科 | 難易度：標準

問題

「リハビリ・形成外科」について環境因子の具体例を判断できるように関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：リハビリテーションの目的を整理する：生活機能を最適化し、障害の影響を軽減して活動・参加を支える  
イ：多職種連携の必要性を説明できる：運動、認知、コミュニケーション、生活環境など複数領域の課題を統合して支援するため  
ウ：環境因子の具体例を判断できる：身体構造のみ  
エ：ICFを用いて目標を統合できる：言語機能だけでなく、会議参加、職場環境、代替手段も含めて目標を設定する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。WHOはリハビリテーションを生活機能の最適化と障害軽減を目的とする介入と位置づけている。  
イ：この対応は正しい。リハビリでは多面的な機能課題に応じて複数職種が協働する。  
ウ：この対応が誤りである。家族の対応は身体構造ではない。  
エ：この対応は正しい。ICFでは心身機能、活動、参加、環境因子を関連づけて目標を立てる。

総合解説：同じ機能障害でも環境の調整により活動・参加は改善し得る。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0055

臨床医学 > リハビリ・形成外科 | 難易度：標準

問題

リハビリ・形成外科の学習で概念の判断を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

- ア：リハビリテーションの目的を整理する：急性期治療が終了するまで一切開始しない
- イ：多職種連携の必要性を説明できる：運動、認知、コミュニケーション、生活環境など複数領域の課題を統合して支援するため
- ウ：ICFを用いて目標を統合できる：言語機能だけでなく、会議参加、職場環境、代替手段も含めて目標を設定する
- エ：口蓋裂の形成外科的治療の目的を整理する：口蓋の連続性と機能を再建し、摂食・嚥下や発話機能の改善につなげる

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。必要に応じ他の治療と並行して早期から実施される。
- イ：この対応は正しい。リハビリでは多面的な機能課題に応じて複数職種が協働する。
- ウ：この対応は正しい。ICFでは心身機能、活動、参加、環境因子を関連づけて目標を立てる。
- エ：この対応は正しい。口蓋形成術は形態の閉鎖だけでなく機能回復を目指す。

総合解説：リハビリテーションは予防・治療と補完し合いながら、本人の自立と社会参加を支える。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0056

臨床医学 > リハビリ・形成外科 | 難易度：基礎

問題

「リハビリ・形成外科」に関する知識を横断して確認する。多職種連携の必要性を説明できるうえで適切な対応はどれか。

- ア：ICFを用いて目標を統合できる：呼称検査得点だけを唯一の目標とする
- イ：口蓋裂の形成外科的治療の目的を整理する：言語評価を不要にする
- ウ：多職種連携の必要性を説明できる：運動、認知、コミュニケーション、生活環境など複数領域の課題を統合して支援するため
- エ：熱傷瘢痕拘縮の機能的影響を判断できる：神経筋接合部障害

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は不適切である。検査得点の一部であり、活動・参加目標も重要である。
- イ：この対応は不適切である。術後も発話・鼻咽腔閉鎖機能などの評価が重要である。
- ウ：この対応は適切である。リハビリでは多面的な機能課題に応じて複数職種が協働する。
- エ：この対応は不適切である。瘢痕の物理的収縮による制限とは異なる。

総合解説：言語聴覚士も多職種チームの一員として、コミュニケーションや嚥下などの視点を共有する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0057

臨床医学 > リハビリ・形成外科 | 難易度：応用

問題  
「リハビリ・形成外科」についてICFを用いて目標を統合できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： ICFを用いて目標を統合できる：言語機能だけでなく、会議参加、職場環境、代替手段も含めて目標を設定する / 口蓋裂の形成外科的治療の目的を整理する：口蓋の連続性と機能を再建し、摂食・嚥下や発話機能の改善につなげる
- イ： 熱傷瘢痕拘縮の機能的影響を判断できる：神経筋接合部障害 / リハビリの開始時期について整理する：すべての急性疾患で退院後まで禁止する
- ウ： ICFの基本構造を説明できる：心身機能・身体構造、活動、参加を相互に関連づけて捉える / 環境因子の具体例を判断できる：身体構造のみ
- エ： リハビリテーションの目的を整理する：急性期治療が終了するまで一切開始しない / 多職種連携の必要性を説明できる：運動、認知、コミュニケーション、生活環境など複数領域の課題を統合して支援するため

答え・解説

正答：ア

- ア： とも正しい。 ICFでは心身機能、活動、参加、環境因子を関連づけて目標を立てる。 口蓋形成術は形態の閉鎖だけでなく機能回復を目指す。
- イ： に誤りを含む。 瘢痕の物理的収縮による制限とは異なる。 一律に禁止する考え方ではない。
- ウ： は正しいが に誤りがある。 家族の対応は身体構造ではない。
- エ： に誤りがある。 必要に応じ他の治療と並行して早期から実施される。 は正しい。

総合解説：機能改善と実生活の活動・参加を結びつけ、必要なら環境調整や代償手段も組み込む。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0058

臨床医学 > リハビリ・形成外科 | 難易度：標準

問題  
「リハビリ・形成外科」について口蓋裂の形成外科的治療の目的を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：熱傷瘢痕拘縮の機能的影響を判断できる：瘢痕拘縮
- イ：口蓋裂の形成外科的治療の目的を整理する：永久歯をすべて抜去する
- ウ：リハビリの開始時期について整理する：全身状態と安全性を確認しつつ、必要に応じ急性期から他の治療と並行して開始する
- エ：ICFの基本構造を説明できる：心身機能・身体構造、活動、参加を相互に関連づけて捉える

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。熱傷後瘢痕の収縮により関節・皮膚の可動域が制限される状態を瘢痕拘縮という。
- イ：この対応が誤りである。口蓋裂治療の標準目的ではない。
- ウ：この対応は正しい。リハビリは回復だけでなく、適応があれば早期から実施される。
- エ：この対応は正しい。ICFは心身機能・身体構造、活動、参加と背景因子を含む枠組みである。

総合解説：口蓋裂では外科、歯科、耳鼻咽喉科、言語聴覚などの多職種管理が必要となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0059臨床医学 > リハビリ・形成外科 | 難易度：応用

問題

リハビリ・形成外科の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：ICFの基本構造を説明できる：障害を本人の身体だけの問題として固定的に扱う / 環境因子の具体例を判断できる：遺伝子型のみ  
イ：リハビリテーションの目的を整理する：生活機能を最適化し、障害の影響を軽減して活動・参加を支える / 多職種連携の必要性を説明できる：すべての患者に同一プログラムを適用するため  
ウ：ICFを用いて目標を統合できる：環境調整は本人の努力を妨げるため避ける / 口蓋裂の形成外科的治療の目的を整理する：口蓋の連続性と機能を再建し、摂食・嚥下や発話機能の改善につなげる  
エ：熱傷瘢痕拘縮の機能的影響を判断できる：瘢痕拘縮 / リハビリの開始時期について整理する：全身状態と安全性を確認しつつ、必要に応じ急性期から他の治療と並行して開始する

答え・解説正答：エ

ア：に誤りを含む。ICFでは環境因子との相互作用も重視する。会話場面の支援を直接表す概念ではない。  
イ：は正しいがに誤りがある。個別性に応じた支援が必要である。  
ウ：に誤りがある。環境調整は参加促進に有効な手段となり得る。は正しい。  
エ：とも正しい。熱傷後瘢痕の収縮により関節・皮膚の可動域が制限される状態を瘢痕拘縮という。リハビリは回復だけでなく、適応があれば早期から実施される。

総合解説：熱傷後の病的瘢痕は肥厚性瘢痕や拘縮を生じ、機能障害が強い場合は再建治療の対象となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0060臨床医学 > リハビリ・形成外科 | 難易度：標準

問題

「リハビリ・形成外科」に関する知識を横断して確認する。リハビリの開始時期について理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：ICFの基本構造を説明できる：心身機能・身体構造、活動、参加を相互に関連づけて捉える  
イ：環境因子の具体例を判断できる：環境因子  
ウ：リハビリの開始時期について整理する：薬物治療と同時に行ってはいけない  
エ：リハビリテーションの目的を整理する：生活機能を最適化し、障害の影響を軽減して活動・参加を支える

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。ICFは心身機能・身体構造、活動、参加と背景因子を含む枠組みである。  
イ：この対応は正しい。家族のコミュニケーション支援は本人を取り巻く環境条件であり、環境因子として捉えられる。  
ウ：この対応が誤りである。他の治療と補完的に実施される。  
エ：この対応は正しい。WHOはリハビリテーションを生活機能の最適化と障害軽減を目的とする介入と位置づけている。

総合解説：安全性を確保しながら早期から機能低下や合併症を予防し、回復・参加を支える。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0061

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：基礎

問題

「口腔解剖・生理」の歯の解剖対応を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：歯髓の内容を説明できる：歯冠表面を覆う無細胞性硬組織だけである  
イ：歯根膜の位置と役割を整理する：歯冠を覆うエナメル質そのものである  
ウ：大唾液腺を列挙できる：扁桃・咽頭・喉頭  
エ：歯の硬組織の位置を整理する：エナメル質

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。これはエナメル質の説明に近い。  
イ：この対応は不適切である。歯根膜は軟組織性の支持組織である。  
ウ：この対応は不適切である。解剖学的部位であり大唾液腺の組合せではない。  
エ：この対応は適切である。エナメル質は歯冠の象牙質を覆う硬組織である。

総合解説：歯はエナメル質、象牙質、セメント質、歯髓などから構成される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0062

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：標準

問題

「口腔解剖・生理」について歯髓の内容を説明できるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：歯根膜の位置と役割を整理する：歯根を歯槽骨に支持する線維性結合組織である  
イ：大唾液腺を列挙できる：耳下腺・顎下腺・舌下腺  
ウ：唾液の口腔機能を統合できる：食塊を湿潤させ、嚥下を助け、口腔内の清掃・防御にも関与する  
エ：歯髓の内容を説明できる：歯と歯槽骨をつなぐ線維だけを指す

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。歯根膜は歯根のセメント質と歯槽骨の間にあり、歯を支持する。  
イ：この対応は正しい。3対の大唾液腺は耳下腺、顎下腺、舌下腺である。  
ウ：この対応は正しい。唾液は食物の湿潤、咀嚼・嚥下、口腔清掃、防御、歯の保護などに関与する。  
エ：この対応が誤りである。これは歯根膜の説明に近い。

総合解説：歯髓は感覚や栄養供給に関与し、歯髓腔・根管内に存在する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0063

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：基礎

問題

口腔解剖・生理の学習で歯周組織の識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：大唾液腺を列挙できる：扁桃・咽頭・喉頭  
イ：唾液の口腔機能を統合できる：赤血球産生を直接刺激する  
ウ：歯根膜の位置と役割を整理する：歯根を歯槽骨に支持する線維性結合組織である  
エ：三叉神経と咀嚼筋の関係を整理する：前庭蝸牛神経（VIII）

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。解剖学的部位であり大唾液腺の組合せではない。  
イ：この対応は不適切である。これは腎由来エリスロポエチンなどの役割である。  
ウ：この対応は適切である。歯根膜は歯根のセメント質と歯槽骨の間にあり、歯を支持する。  
エ：この対応は不適切である。聴覚・平衡を担う。

総合解説：歯周組織には歯肉、歯根膜、セメント質、歯槽骨などが含まれる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0064

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：標準

問題

「口腔解剖・生理」に関する知識を横断して確認する。大唾液腺を列挙できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：唾液の口腔機能を統合できる：食塊を湿润させ、嚥下を助け、口腔内の清掃・防御にも関与する  
イ：三叉神経と咀嚼筋の関係を整理する：三叉神経の下顎神経（V3）  
ウ：大唾液腺を列挙できる：涙腺・汗腺・皮脂腺  
エ：舌の主要運動神経を整理する：舌下神経（XII）

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。唾液は食物の湿润、咀嚼・嚥下、口腔清掃、防御、歯の保護などに関与する。  
イ：この対応は正しい。三叉神経の第3枝である下顎神経は感覚線維に加え咀嚼筋への運動線維を含む。  
ウ：この対応が誤りである。これらは唾液腺ではない。  
エ：この対応は正しい。舌下神経は舌の主要運動神経である。

総合解説：大唾液腺は口腔内へ導管を介して唾液を分泌し、ほかに多数の小唾液腺がある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0065

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：応用

問題

口腔解剖・生理の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 舌の主要運動神経を整理する：視神経（Ⅱ） / 味覚の脳神経支配を整理する：視神経（Ⅱ）  
イ： 脳神経障害を口腔所見から推定できる：舌下神経（Ⅻ） / 下顎骨の神経通過部位を整理する：視神経  
ウ： 歯の硬組織の位置を整理する：歯根膜 / 歯髄の内容を説明できる：血管、神経、結合組織などを含む軟組織である  
エ： 唾液の口腔機能を統合できる：食塊を湿潤させ、嚥下を助け、口腔内の清掃・防御にも関与する / 三叉神経と咀嚼筋の関係を整理する：三叉神経の下顎神経（Ⅴ3）

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 視覚を担う。 視覚を担う。  
イ： は正しいが に誤りがある。 視神経は視神経管を通る。  
ウ： に誤りがある。 歯根膜は歯根と歯槽骨の間にある結合組織である。 は正しい。  
エ： とも正しい。 唾液は食物の湿潤、咀嚼・嚥下、口腔清掃、防御、歯の保護などに関与する。 三叉神経の第3枝である下顎神経は感覚線維に加え咀嚼筋への運動線維を含む。

総合解説：口腔乾燥では咀嚼・嚥下・発話が難しくなり、齲蝕や口腔感染リスクも高まる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0066

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：標準

問題

「口腔解剖・生理」について三叉神経と咀嚼筋の関係を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：三叉神経と咀嚼筋の関係を整理する：舌咽神経（Ⅸ）の感覚線維だけ  
イ：舌の主要運動神経を整理する：舌下神経（Ⅻ）  
ウ：味覚の脳神経支配を整理する：顔面神経（Ⅶ）の鼓索神経  
エ：脳神経障害を口腔所見から推定できる：舌下神経（Ⅻ）

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。咀嚼筋の主要運動支配ではない。  
イ：この対応は正しい。舌下神経は舌の主要運動神経である。  
ウ：この対応は正しい。舌前方約2/3の味覚は主に顔面神経の鼓索神経を介して伝わる。  
エ：この対応は正しい。舌下神経障害は舌運動の左右差や萎縮などを生じ、構音・嚥下に影響し得る。

総合解説：咀嚼運動では咬筋、側頭筋、翼突筋群などが協調し、主にⅤ3の運動線維が関与する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0067

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：基礎

問題

口腔解剖・生理の学習で口腔神経支配の識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：味覚の脳神経支配を整理する：視神経（Ⅱ）  
イ：脳神経障害を口腔所見から推定できる：三叉神経（Ⅴ）  
ウ：舌の主要運動神経を整理する：舌下神経（Ⅻ）  
エ：下顎骨の神経通過部位を整理する：迷走神経

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。視覚を担う。  
イ：この対応は不適切である。三叉神経は顔面感覚や咀嚼筋運動に関与するが、舌筋の主要運動神経ではない。  
ウ：この対応は適切である。舌下神経は舌の主要運動神経である。  
エ：この対応は不適切である。迷走神経は頸部・胸腹部へ走行し下顎管を通らない。

総合解説：舌運動は構音、食塊形成、送り込みなどに重要であり、舌下神経障害で機能低下が生じる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0068

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：標準

問題

「口腔解剖・生理」に関する知識を横断して確認する。味覚の脳神経支配を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：味覚の脳神経支配を整理する：副神経（Ⅺ）  
イ：脳神経障害を口腔所見から推定できる：舌下神経（Ⅻ）  
ウ：下顎骨の神経通過部位を整理する：下歯槽神経  
エ：歯の硬組織の位置を整理する：エナメル質

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。胸鎖乳突筋・僧帽筋などの運動に関与する。  
イ：この対応は正しい。舌下神経障害は舌運動の左右差や萎縮などを生じ、構音・嚥下に影響し得る。  
ウ：この対応は正しい。下歯槽神経と血管は下顎孔から下顎管へ入る。  
エ：この対応は正しい。エナメル質は歯冠の象牙質を覆う硬組織である。

総合解説：舌後方約1/3の味覚は主に舌咽神経（Ⅸ）が担う。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0069

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：応用

問題  
「口腔解剖・生理」について脳神経障害を口腔所見から推定できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： 歯の硬組織の位置を整理する：セメント質 / 歯髄の内容を説明できる：歯と歯槽骨をつなぐ線維だけを指す  
イ： 歯根膜の位置と役割を整理する：歯根を歯槽骨に支持する線維性結合組織である / 大唾液腺を列挙できる：扁桃・咽頭・喉頭  
ウ： 唾液の口腔機能を統合できる：赤血球産生を直接刺激する / 三叉神経と咀嚼筋の関係を整理する：三叉神経の下顎神経（V3）  
エ： 脳神経障害を口腔所見から推定できる：舌下神経（XII） / 下顎骨の神経通過部位を整理する：下歯槽神経

答え・解説

正答：エ

- ア： に誤りを含む。 セメント質は主に歯根表面を覆う。 これは歯根膜の説明に近い。  
イ： は正しいが に誤りがある。 解剖学的部位であり大唾液腺の組合せではない。  
ウ： に誤りがある。 これは腎由来エリスロポエチンなどの役割である。 は正しい。  
エ： とも正しい。 舌下神経障害は舌運動の左右差や萎縮などを生じ、構音・嚥下に影響し得る。 下歯槽神経と血管は下顎孔から下顎管へ入る。

総合解説：口腔運動所見は脳神経評価の重要な一部であり、舌運動はXIIの機能を反映する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0070

臨床歯科医学 > 口腔解剖・生理 | 難易度：標準

問題  
「口腔解剖・生理」について下顎骨の神経通過部位を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：歯の硬組織の位置を整理する：エナメル質  
イ：下顎骨の神経通過部位を整理する：顔面神経本幹  
ウ：歯髄の内容を説明できる：血管、神経、結合組織などを含む軟組織である  
エ：歯根膜の位置と役割を整理する：歯根を歯槽骨に支持する線維性結合組織である

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。エナメル質は歯冠の象牙質を覆う硬組織である。  
イ：この対応が誤りである。顔面神経は下顎孔を通らない。  
ウ：この対応は正しい。歯髄は歯の中心部にあり、血管・神経・結合組織を含む。  
エ：この対応は正しい。歯根膜は歯根のセメント質と歯槽骨の間にあり、歯を支持する。

総合解説：下歯槽神経はV3の枝で、下顎歯や周囲組織の感覚に関与する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0071

臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：基礎

問題

口腔疾患・口腔外科の学習で口腔疾患の病態識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：歯肉炎と歯周炎を区別できる：改善しても炎症は不可逆である  
イ：齲蝕の基本発生機序を説明できる：口腔細菌が糖質から酸を産生し、歯面の脱灰を進める  
ウ：歯周炎の代表所見を整理する：舌運動が必ず麻痺する  
エ：口腔カンジダ症の典型像を整理する：すべての歯が突然脱落する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。ブラーク性歯肉炎は適切な管理で改善可能である。  
イ：この対応は適切である。齲蝕は細菌由来の酸がエナメル質などを脱灰することで進行する。  
ウ：この対応は不適切である。歯周炎の直接所見ではない。  
エ：この対応は不適切である。典型所見ではない。

総合解説：齲蝕予防ではブラーク管理、糖摂取の管理、フッ化物利用などが重要となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0072

臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：標準

問題

「口腔疾患・口腔外科」に関する知識を横断して確認する。歯肉炎と歯周炎を区別できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：歯肉炎と歯周炎を区別できる：歯肉の炎症は起こらない  
イ：歯周炎の代表所見を整理する：歯周付着の喪失と歯槽骨吸収  
ウ：口腔カンジダ症の典型像を整理する：口腔粘膜に白色の偽膜様病変がみられる  
エ：口腔乾燥の二次的リスクを統合できる：齲蝕と口腔真菌感染の増加

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。歯肉炎は文字通り歯肉の炎症である。  
イ：この対応は正しい。歯周炎では歯を支持する組織の破壊が進み、付着喪失・骨吸収が生じる。  
ウ：この対応は正しい。偽膜性カンジダ症は口腔内に白色の偽膜状病変を形成する代表型である。  
エ：この対応は正しい。唾液減少により口腔清掃・緩衝・抗菌作用が低下し、齲蝕や真菌感染リスクが高まる。

総合解説：歯肉炎から歯周炎へ進行すると付着喪失や歯槽骨吸収が問題となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0073

臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：基礎

問題

「口腔疾患・口腔外科」の歯周疾患の識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：歯周炎の代表所見を整理する：歯周付着の喪失と歯槽骨吸収  
イ：口腔カンジダ症の典型像を整理する：すべての歯が突然脱落する  
ウ：口腔乾燥の二次的リスクを統合できる：口腔乾燥は歯や粘膜に影響しない  
エ：口腔がんの主要危険因子を整理する：適切な口腔清掃だけ

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。歯周炎では歯を支持する組織の破壊が進み、付着喪失・骨吸収が生じる。  
イ：この対応は不適切である。典型所見ではない。  
ウ：この対応は不適切である。口腔健康に大きく影響する。  
エ：この対応は不適切である。口腔清掃そのものは主要危険因子ではない。

総合解説：歯周炎は慢性炎症により歯周組織が破壊され、進行すると歯の喪失につながる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0074

臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：標準

問題

「口腔疾患・口腔外科」について口腔カンジダ症の典型像を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：口腔乾燥の二次的リスクを統合できる：齲蝕と口腔真菌感染の増加  
イ：口腔がんの主要危険因子を整理する：喫煙と多量の飲酒  
ウ：口腔がんの警告症状を整理する：治りにくい口腔内病変や持続する腫瘍、嚥下・咀嚼の困難  
エ：口腔カンジダ症の典型像を整理する：耳介に限局した発疹だけがみられる

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。唾液減少により口腔清掃・緩衝・抗菌作用が低下し、齲蝕や真菌感染リスクが高まる。  
イ：この対応は正しい。口腔がんの多くはたばこ使用や飲酒と関連し、咽頭領域ではHPVも重要である。  
ウ：この対応は正しい。持続する口腔病変、しこり、嚥下・咀嚼・発話の困難などは評価が必要な警告所見である。  
エ：この対応が誤りである。口腔カンジダ症の説明ではない。

総合解説：口腔カンジダ症は免疫低下、抗菌薬、義歯、口腔乾燥などと関連することがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0075

臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：応用

問題  
「口腔疾患・口腔外科」について口腔乾燥の二次的リスクを統合できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： 口腔がんの警告症状を整理する：正常な舌運動を口腔がんの特異所見とする / 口蓋裂の発生機序を整理する：成人期の咬耗だけで生じる
- イ： 口腔乾燥の二次的リスクを統合できる：齲蝕と口腔真菌感染の増加 / 口腔がんの主要危険因子を整理する：喫煙と多量の飲酒
- ウ： 口腔がん患者の多職種支援を判断できる：腫瘍治療と並行して歯科・外科・言語聴覚など多職種で機能評価とリハビリを行う / 放射線治療による口腔乾燥の機序を整理する：放射線が必ず唾液腺分泌を恒久的に増加させるため
- エ： 齲蝕の基本発生機序を説明できる：咬合接触があるだけで細菌なしに必ず齲蝕になる / 歯肉炎と歯周炎を区別できる：炎症が歯肉を中心にみられ、原則として付着喪失や歯槽骨破壊を伴わない

答え・解説

正答：イ

- ア： に誤りを含む。 正常所見はがんの特異徴候ではない。 発生機序とは無関係である。
- イ： とも正しい。 唾液減少により口腔清掃・緩衝・抗菌作用が低下し、齲蝕や真菌感染リスクが高まる。 口腔がんの多くはたばこ使用や飲酒と関連し、咽頭領域ではHPVも重要である。
- ウ： は正しいが に誤りがある。 一般に分泌低下が問題となる。
- エ： に誤りがある。 細菌・糖質・宿主・時間など複数因子が関与する。 は正しい。

総合解説：口腔乾燥では水分管理、口腔衛生、齲蝕予防、真菌感染への注意が必要となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0076

臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：標準

問題  
「口腔疾患・口腔外科」に関する知識を横断して確認する。口腔がんの主要危険因子を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：口腔がんの主要危険因子を整理する：十分な水分摂取だけ
- イ：口腔がんの警告症状を整理する：治りにくい口腔内病変や持続する腫瘍、嚥下・咀嚼の困難
- ウ：口蓋裂の発生機序を整理する：胎生期に口蓋を形成する組織の癒合が不完全となる
- エ：口腔がん患者の多職種支援を判断できる：腫瘍治療と並行して歯科・外科・言語聴覚など多職種で機能評価とリハビリを行う

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。主要危険因子ではない。
- イ：この対応は正しい。持続する口腔病変、しこり、嚥下・咀嚼・発話の困難などは評価が必要な警告所見である。
- ウ：この対応は正しい。口蓋裂は発生過程で口蓋組織の正常な癒合が成立しないことで生じる。
- エ：この対応は正しい。口腔がん治療では機能障害に応じて多職種支援が必要となる。

総合解説：口腔・咽頭がんでは生活習慣因子やHPVなどが関与し、早期発見が重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0077

臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：基礎

問題

「口腔疾患・口腔外科」の警告所見の識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：口腔がんの警告症状を整理する：治りにくい口腔内病変や持続する腫瘍、嚥下・咀嚼の困難  
イ：口蓋裂の発生機序を整理する：成人期の咬耗だけで生じる  
ウ：口腔がん患者の多職種支援を判断できる：構音・嚥下機能は評価せず腫瘍の画像だけを見る  
エ：放射線治療による口腔乾燥の機序を整理する：歯根膜が唾液を作らなくなるため

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。持続する口腔病変、しこり、嚥下・咀嚼・発話の困難などは評価が必要な警告所見である。  
イ：この対応は不適切である。発生機序とは無関係である。  
ウ：この対応は不適切である。治療後の生活機能評価も重要である。  
エ：この対応は不適切である。唾液は唾液腺から分泌される。

総合解説：口腔がんは視診・触診などで早期発見できる可能性があり、持続する異常は専門評価につなげる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0078

臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：標準

問題

「口腔疾患・口腔外科」について口蓋裂の発生機序を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：口蓋裂の発生機序を整理する：出生後の歯磨き不足だけで口蓋に裂が生じる  
イ：口腔がん患者の多職種支援を判断できる：腫瘍治療と並行して歯科・外科・言語聴覚など多職種で機能評価とリハビリを行う  
ウ：放射線治療による口腔乾燥の機序を整理する：照射により唾液腺が障害され、唾液分泌が低下することがあるため  
エ：齶蝕の基本発生機序を説明できる：口腔細菌が糖質から酸を産生し、歯面の脱灰を進める

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。先天性の発生異常である。  
イ：この対応は正しい。口腔がん治療では機能障害に応じて多職種支援が必要となる。  
ウ：この対応は正しい。頭頸部照射では唾液腺障害により持続的な口腔乾燥が生じ得る。  
エ：この対応は正しい。齶蝕は細菌由来の酸がエナメル質などを脱灰することで進行する。

総合解説：口蓋裂は摂食、耳疾患、発話などに影響し、多職種で長期的に支援する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0079臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：応用

問題

「口腔疾患・口腔外科」の治療後機能の複合判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア：  齲蝕の基本発生機序を説明できる：歯髄の神経活動だけでエナメル質に穴があく /    歯肉炎と歯周炎を区別できる：歯肉の炎症は起こらない

イ：  口腔がん患者の多職種支援を判断できる：腫瘍治療と並行して歯科・外科・言語聴覚など多職種で機能評価とリハビリを行う /    放射線治療による口腔乾燥の機序を整理する：照射により唾液腺が障害され、唾液分泌が低下することがあるため

ウ：  歯周炎の代表所見を整理する：歯周付着の喪失と歯槽骨吸収 /    口腔カンジダ症の典型像を整理する：すべての歯が突然脱落する

エ：  口腔乾燥の二次的リスクを統合できる：口腔乾燥は歯や粘膜に影響しない /    口腔がんの主要危険因子を整理する：喫煙と多量の飲酒

0080臨床歯科医学 > 口腔疾患・口腔外科 | 難易度：標準

問題

「口腔疾患・口腔外科」に関する知識を横断して確認する。放射線治療による口腔乾燥の機序を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：齲蝕の基本発生機序を説明できる：口腔細菌が糖質から酸を産生し、歯面の脱灰を進める

イ：放射線治療による口腔乾燥の機序を整理する：舌下神経だけが唾液を産生するため

ウ：歯肉炎と歯周炎を区別できる：炎症が歯肉を中心にみられ、原則として付着喪失や歯槽骨破壊を伴わない

エ：歯周炎の代表所見を整理する：歯周付着の喪失と歯槽骨吸収

答え・解説正答：イ

ア：  に誤りを含む。  齲蝕の基本機序ではない。  歯肉炎は文字通り歯肉の炎症である。

イ：  とも正しい。  口腔がん治療では機能障害に応じて多職種支援が必要となる。  頭頸部照射では唾液腺障害により持続的な口腔乾燥が生じ得る。

ウ：  は正しいが  に誤りがある。  典型所見ではない。

エ：  に誤りがある。  口腔健康に大きく影響する。  は正しい。

総合解説：口腔・頭頸部がん治療では生存だけでなく、発話・嚥下・栄養・口腔機能の維持も重要な課題となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：イ

ア：この対応は正しい。齲蝕は細菌由来の酸がエナメル質などを脱灰することで進行する。

イ：この対応が誤りである。舌下神経は運動神経であり唾液の産生器官ではない。

ウ：この対応は正しい。歯肉炎は歯周炎と異なり、支持組織の不可逆的破壊を伴わない。

エ：この対応は正しい。歯周炎では歯を支持する組織の破壊が進み、付着喪失・骨吸収が生じる。

総合解説：口腔乾燥は発話・咀嚼・嚥下や口腔衛生に影響するため、支持療法が重要となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0081

臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：基礎

問題

「顎口腔機能・咬合」の顎関節解剖の識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：開口運動の回転と滑走を整理する：下顎頭は完全に固定され、歯だけが動く  
イ：咬筋の主作用を説明できる：声帯を外転させる  
ウ：顎関節の構成を整理する：下顎頭、側頭骨の関節面、関節円板  
エ：左右顎関節の協調性を整理する：開口時には必ず片側だけが動く

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。顎関節運動が必要である。  
イ：この対応は不適切である。喉頭筋の作用である。  
ウ：この対応は適切である。顎関節では下顎頭と側頭骨の関節面の間に関節円板が存在する。  
エ：この対応は不適切である。通常は両側が協調して動く。

総合解説：顎関節は左右一対で、咀嚼・開閉口・発話などの下顎運動に関与する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0082

臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：標準

問題

「顎口腔機能・咬合」について開口運動の回転と滑走を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：咬筋の主作用を説明できる：下顎を挙上して閉口に働く  
イ：開口運動の回転と滑走を整理する：関節円板は存在しないため骨同士が直接こすれる  
ウ：左右顎関節の協調性を整理する：一つの下顎骨で連結されているため、左右の関節運動は相互に影響する  
エ：顎関節症の代表症状を症例から判断できる：顎関節症（TMD）

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。咬筋は下顎を挙上し、咬合・咀嚼に寄与する。  
イ：この対応が誤りである。正常顎関節には関節円板が存在する。  
ウ：この対応は正しい。左右の顎関節は同一下顎骨を共有し協調運動する。  
エ：この対応は正しい。TMDは顎関節や咀嚼筋の疼痛、顎運動障害などを含む病態群である。

総合解説：顎関節は単純な蝶番運動だけでなく、回転と滑走を組み合わせた複雑な運動を行う。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0083

臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：基礎

問題

顎口腔機能・咬合の学習で咀嚼筋の機能識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：左右顎関節の協調性を整理する：開口時には必ず片側だけが動く  
イ：顎関節症の代表症状を症例から判断できる：急性脳卒中  
ウ：咬筋の主作用を説明できる：下顎を拳上して閉口に働く  
エ：無痛性顎関節雑音の扱いを整理する：顎関節脱臼と必ず診断する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。通常は両側が協調して動く。  
イ：この対応は不適切である。顎関節局所痛と開口制限だけでは典型的でない。  
ウ：この対応は適切である。咬筋は下顎を拳上し、咬合・咀嚼に寄与する。  
エ：この対応は不適切である。関節音だけで脱臼とは診断しない。

総合解説：咀嚼筋群は下顎の拳上、前突、側方運動などを協調して行う。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0084

臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：標準

問題

「顎口腔機能・咬合」に関する知識を横断して確認する。左右顎関節の協調性を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：左右顎関節の協調性を整理する：咀嚼時に顎関節は一切動かない  
イ：顎関節症の代表症状を症例から判断できる：顎関節症（TMD）  
ウ：無痛性顎関節雑音の扱いを整理する：無痛性の関節雑音は比較的良好とみられ、必ずしも治療を必要としない  
エ：咬合の基本概念を整理する：上下顎の歯が接触する関係やその機能的関係

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。咀嚼には顎関節運動が不可欠である。  
イ：この対応は正しい。TMDは顎関節や咀嚼筋の疼痛、顎運動障害などを含む病態群である。  
ウ：この対応は正しい。痛みを伴わないクリックやポッピングは一般的で、治療不要のことがある。  
エ：この対応は正しい。咬合は上下の歯列がどのように接触・機能するかを表す概念である。

総合解説：顎関節運動を評価するときは一側だけでなく左右の協調と下顎偏位も観察する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0085

臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：応用

問題

「顎口腔機能・咬合」のTMD症例判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 顎関節症の代表症状を症例から判断できる：顎関節症（TMD） / 無痛性顎関節雑音の扱いを整理する：無痛性の関節雑音は比較的好くみられ、必ずしも治療を必要としない

イ： 咬合の基本概念を整理する：左右の耳介の位置関係 / TMDの初期治療原則を整理する：全例で直ちに顎関節置換術を行う

ウ： TMDの誤った因果推論を避けられる：TMDの原因は多因子で、咬合異常や矯正治療だけを一律の原因とする根拠は支持されていない / 顎口腔機能を発話・摂食と関連づける：下顎運動は咀嚼以外の口腔機能と無関係だから

エ： 顎関節の構成を整理する：距骨、脛骨、膝蓋骨 / 開口運動の回転と滑走を整理する：下顎頭の回転運動に加えて前方への滑走運動が組み合わさる

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 TMDは顎関節や咀嚼筋の疼痛、顎運動障害などを含む病態群である。 痛みを伴わないクリックやポッピングは一般的で、治療不要のことがある。

イ： に誤りを含む。 歯科的咬合とは無関係である。 侵襲的治療は全例の初期対応ではない。

ウ： は正しいが に誤りがある。 発話や摂食時にも顎位・運動が関与する。

エ： に誤りがある。 顎関節の構成ではない。 は正しい。

総合解説：TMDは関節、咀嚼筋、関連頭痛など複数の病態を含み、診断には病歴と顎機能評価が重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0086

臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：標準

問題

「顎口腔機能・咬合」について無痛性顎関節雑音の扱いを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：咬合の基本概念を整理する：上下顎の歯が接触する関係やその機能的関係

イ：無痛性顎関節雑音の扱いを整理する：永久的に咬合を削合して変える

ウ：TMDの初期治療原則を整理する：症状に応じ、軟食・習癖調整・疼痛管理など保存的で可逆的な方法から検討する

エ：TMDの誤った因果推論を避けられる：TMDの原因は多因子で、咬合異常や矯正治療だけを一律の原因とする根拠は支持されていない

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。咬合は上下の歯列がどのように接触・機能するかを表す概念である。

イ：この対応が誤りである。不可逆的治療は慎重に扱うべきである。

ウ：この対応は正しい。多くのTMDではまず保存的で可逆的な治療が推奨される。

エ：この対応は正しい。NIDCRはTMDの原因は複雑で、悪い咬み合わせや矯正治療が原因という考えを研究は支持しないとしている。

総合解説：TMDでは症状の有無と機能障害の程度を評価し、不必要な不可逆的治療を避ける。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0087

臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：基礎

問題

顎口腔機能・咬合の学習で咬合の定義を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：TMDの初期治療原則を整理する：全例で直ちに顎関節置換術を行う  
イ：咬合の基本概念を整理する：上下顎の歯が接触する関係やその機能的関係  
ウ：TMDの誤った因果推論を避けられる：TMDは全例が自然治癒し診断不要だから  
エ：顎口腔機能を発話・摂食と関連づける：顎関節は静止しているほど正常だから

答え・解説

正答：イ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0088

臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：標準

問題

「顎口腔機能・咬合」に関する知識を横断して確認する。TMDの初期治療原則を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：TMDの誤った因果推論を避けられる：TMDの原因は多因子で、咬合異常や矯正治療だけを一律の原因とする根拠は支持されていない  
イ：TMDの初期治療原則を整理する：疼痛や開口障害の程度を評価しない  
ウ：顎口腔機能を発話・摂食と関連づける：咀嚼だけでなく、構音や摂食時の口腔運動にも下顎の安定した運動が関与するため  
エ：顎関節の構成を整理する：下顎頭、側頭骨の関節面、関節円板

答え・解説

正答：イ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。侵襲的治療は全例の初期対応ではない。  
イ：この対応は適切である。咬合は上下の歯列がどのように接触・機能するかを表す概念である。  
ウ：この対応は不適切である。評価が必要な症例もある。  
エ：この対応は不適切である。正常機能には適切な可動性と協調が必要である。

総合解説：咬合は咀嚼や顎運動と関連するが、顎関節症を単純に「悪い咬み合わせだけ」で説明することはできない。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0089臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：応用

問題

顎口腔機能・咬合の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 顎関節の構成を整理する：上腕骨頭、肩甲骨関節窩、半月板 / 開口運動の回転と滑走を整理する：関節円板は存在しないため骨同士が直接こすれる  
イ： 咬筋の主作用を説明できる：下顎を挙上して閉口に働く / 左右顎関節の協調性を整理する：開口時には必ず片側だけが動く  
ウ： TMDの誤った因果推論を避けられる：TMDの原因は多因子で、咬合異常や矯正治療だけを一律の原因とする根拠は支持されていない / 顎口腔機能を発話・摂食と関連づける：咀嚼だけでなく、構音や摂食時の口腔運動にも下顎の安定した運動が関与するため  
エ： 顎関節症の代表症状を症例から判断できる：急性脳卒中 / 無痛性顎関節雑音の扱いを整理する：無痛性の関節雑音は比較的良好とみられ、必ずしも治療を必要としない

答え・解説正答：ウ

ア： に誤りを含む。 肩関節等の構造であり顎関節ではない。 正常顎関節には関節円板が存在する。  
イ： は正しいが に誤りがある。 通常は両側が協調して動く。  
ウ： とともに正しい。 NIDCRはTMDの原因は複雑で、悪い咬み合わせや矯正治療が原因という考えを研究は支持しないとしている。 顎口腔系は咀嚼、嚥下、発声・構音など複数の機能に関わる。  
エ： に誤りがある。 顎関節局所痛と開口制限だけでは典型的でない。 は正しい。

総合解説：単一原因に決めつけず、疼痛、関節、筋、心理社会的要因などを含めて評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0090臨床歯科医学 > 顎口腔機能・咬合 | 難易度：標準

問題

「顎口腔機能・咬合」について顎口腔機能を発話・摂食と関連づけるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：顎口腔機能を発話・摂食と関連づける：下顎運動は視覚系だけで制御されるから  
イ：顎関節の構成を整理する：下顎頭、側頭骨の関節面、関節円板  
ウ：開口運動の回転と滑走を整理する：下顎頭の回転運動に加えて前方への滑走運動が組み合わさる  
エ：咬筋の主作用を説明できる：下顎を挙上して閉口に働く

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。感覚・運動・筋骨格系など多くの要素が関与する。  
イ：この対応は正しい。顎関節では下顎頭と側頭骨の関節面の間に関節円板が存在する。  
ウ：この対応は正しい。開口では初期の回転と、その後の下顎頭・円板複合体の前方移動が組み合わさる。  
エ：この対応は正しい。咬筋は下顎を挙上し、咬合・咀嚼に寄与する。

総合解説：言語聴覚領域では顎、舌、口唇、軟口蓋などを連続した機能系として観察する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0091

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：基礎

問題

発声発語の医学の学習で発声生理の識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：安静呼吸時と発声時の声帯位置を区別できる：声帯は完全閉鎖したままである  
イ：嚙声の医学的評価が必要な状況を整理する：嚙声が半年続くまで必ず放置する  
ウ：発声に必要な呼気流と声帯振動の関係を説明できる：肺からの呼気流が喉頭を通り、接近した声帯を振動させて音源を生じる  
エ：声帯麻痺の症状を整理する：両眼の視力低下だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。完全閉鎖では安静呼吸が妨げられる。  
イ：この対応は不適切である。持続性嚙声では早めの評価が必要である。  
ウ：この対応は適切である。音声は肺からの呼気流によって声帯が振動することで生じる。  
エ：この対応は不適切である。声帯麻痺の代表症状ではない。

総合解説：発話では呼吸・発声・共鳴・構音が連携する。音源は主に喉頭の声帯振動で形成される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0092

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：標準

問題

「発声発語の医学」に関する知識を横断して確認する。安静呼吸時と発声時の声帯位置を区別できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：嚙声の医学的評価が必要な状況を整理する：喉頭疾患の有無を確認するため医師の評価を受ける  
イ：声帯麻痺の症状を整理する：気息性の嚙声や嚙下時のむせ  
ウ：声帯麻痺で誤嚥リスクが高まる機序を説明できる：嚙下時の声門閉鎖が不十分となり、気道防御が低下するため  
エ：安静呼吸時と発声時の声帯位置を区別できる：声帯は食道入口部を塞ぐ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。NIDCDは3週間を超える嚙声などでは医療機関への相談を勧めている。  
イ：この対応は正しい。声帯閉鎖が不十分になると気息性嚙声が生じ、気道防御低下から嚙下時のむせも起こり得る。  
ウ：この対応は正しい。声帯が十分に閉じられないと、食物や液体が気管へ入りやすくなる。  
エ：この対応が誤りである。声帯は喉頭内にあり食道入口部そのものではない。

総合解説：声帯は呼吸時には開大し、発声時には接近して呼気により振動する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0093

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：基礎

問題

「発声発語の医学」の受診判断を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：声帯麻痺の症状を整理する：両眼の視力低下だけ  
イ：声帯麻痺で誤嚥リスクが高まる機序を説明できる：声帯麻痺により唾液が完全に消失するため  
ウ：嚙声の医学的評価が必要な状況を整理する：喉頭疾患の有無を確認するため医師の評価を受ける  
エ：痙攣性発声障害の内転型を整理する：純粋な伝音難聴だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。声帯麻痺の代表症状ではない。  
イ：この対応は不適切である。声帯麻痺だけで唾液分泌が完全消失するわけではない。  
ウ：この対応は適切である。NIDCDは3週間を超える嚙声などでは医療機関への相談を勧めている。  
エ：この対応は不適切である。聴覚障害ではなく喉頭ジストニアである。

総合解説：持続する嚙声は炎症、声帯病変、神経疾患、腫瘍など多様な原因があり、原因検索が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0094

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：標準

問題

「発声発語の医学」について声帯麻痺の症状を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：声帯麻痺の症状を整理する：歯のエナメル質脱灰だけ  
イ：声帯麻痺で誤嚥リスクが高まる機序を説明できる：嚙下時の声門閉鎖が不十分となり、気道防御が低下するため  
ウ：痙攣性発声障害の内転型を整理する：締めつけられたような努力性・絞扼性の声  
エ：痙攣性発声障害の代表治療を整理する：喉頭の標的筋へのボツリヌス毒素注射

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。口腔硬組織の所見であり声帯麻痺とは異なる。  
イ：この対応は正しい。声帯が十分に閉じられないと、食物や液体が気管へ入りやすくなる。  
ウ：この対応は正しい。内転型では発声中に声帯が過度に閉鎖し、声が途切れたり絞扼性となる。  
エ：この対応は正しい。ボツリヌス毒素は過剰な筋収縮を一時的に弱め、症状を軽減する目的で用いられる。

総合解説：声帯麻痺では音声だけでなく呼吸・嚙下にも影響し得るため、機能を横断して評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0095

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：応用

問題

発声発語の医学の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

- ア： 痙攣性発声障害の代表治療を整理する：腎透析 / 共鳴腔の役割を説明できる：肺胞で血液に変換される
- イ： 声帯麻痺で誤嚥リスクが高まる機序を説明できる：嚥下時の声門閉鎖が不十分となり、気道防御が低下するため / 痙攣性発声障害の内転型を整理する：締めつけられたような努力性・絞扼性の声
- ウ： 反回性呼吸器乳頭腫症の病因と症状を統合する：ヒトパピローマウイルス（HPV）6型・11型 / 声・発話・言語を医学的に区別できる：言語は必ず音声だけで表現される
- エ： 発声に必要な呼気流と声帯振動の関係を説明できる：吸気時に食道内の空気が歯を直接振動させて音源を作る / 安静呼吸時と発声時の声帯位置を区別できる：声帯は開いており、気流が気道を通過できる

答え・解説

正答：イ

- ア： に誤りを含む。 喉頭筋のジストニア治療ではない。 音は血液へ変換されない。
- イ： とも正しい。 声帯が十分に閉じられないと、食物や液体が気管へ入りやすくなる。 内転型では発声中に声帯が過度に閉鎖し、声が途切れたり絞扼性となる。
- ウ： は正しいが に誤りがある。 言語は書字、手話、ジェスチャー等でも表現できる。
- エ： に誤りがある。 通常発声の音源は歯ではなく声帯振動である。 は正しい。

**総合解説：**喉頭は発声器官であると同時に気道防御にも重要であり、声帯閉鎖不全は誤嚥の一因となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0096

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：標準

問題

「発声発語の医学」に関する知識を横断して確認する。痙攣性発声障害の内転型を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：痙攣性発声障害の内転型を整理する：舌の感覚消失だけ
- イ：痙攣性発声障害の代表治療を整理する：喉頭の標的筋へのボツリヌス毒素注射
- ウ：共鳴腔の役割を説明できる：共鳴によって音色などが修飾され、発話音形成に寄与する
- エ：反回性呼吸器乳頭腫症の病因と症状を統合する：ヒトパピローマウイルス（HPV）6型・11型

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。主病態は喉頭筋の不随意性スパズムである。
- イ：この対応は正しい。ボツリヌス毒素は過剰な筋収縮を一時的に弱め、症状を軽減する目的で用いられる。
- ウ：この対応は正しい。声帯振動で生じた音は咽頭・口腔・鼻腔などの共鳴腔で修飾される。
- エ：この対応は正しい。反回性呼吸器乳頭腫症は主にHPV6型・11型に関連する。

**総合解説：**痙攣性発声障害は喉頭ジストニアで、内転型と外転型では声質が異なる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0097

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：基礎

問題

「発声発語の医学」の治療法の知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：共鳴腔の役割を説明できる：肺胞で血液に変換される  
イ：反回性呼吸器乳頭腫症の病因と症状を統合する：インフルエンザウイルスだけ  
ウ：痙攣性発声障害の代表治療を整理する：喉頭の標的筋へのボツリヌス毒素注射  
エ：声・発話・言語を医学的に区別できる：発話は文字だけで成立し、音声運動を含まない

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。音は血液へ変換されない。  
イ：この対応は不適切である。RRPの主要原因ではない。  
ウ：この対応は適切である。ボツリヌス毒素は過剰な筋収縮を一時的に弱め、症状を軽減する目的で用いられる。  
エ：この対応は不適切である。発話は主に協調した発声・構音運動を含む。

総合解説：痙攣性発声障害は慢性で、ボツリヌス毒素注射や音声治療などを症状に応じて組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0098

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：標準

問題

「発声発語の医学」について共鳴腔の役割を説明するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：反回性呼吸器乳頭腫症の病因と症状を統合する：ヒトパピローマウイルス（HPV）6型・11型  
イ：声・発話・言語を医学的に区別できる：声は声帯振動による音、発話は構音器官で音を形作る運動、言語は意味を共有する規則体系である  
ウ：発声に必要な呼気流と声帯振動の関係を説明できる：肺からの呼気流が喉頭を通り、接近した声帯を振動させて音源を生じる  
エ：共鳴腔の役割を説明できる：腎臓で周波数が決定される

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。反回性呼吸器乳頭腫症は主にHPV6型・11型に関連する。  
イ：この対応は正しい。NIDCDはvoice、speech、languageを異なる機能として区別している。  
ウ：この対応は正しい。音声は肺からの呼気流によって声帯が振動することで生じる。  
エ：この対応が誤りである。腎臓は発声共鳴に関与しない。

総合解説：発声で得た音源を、共鳴腔と構音器官が修飾することで多様な音声・発話が形成される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0099

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：応用

問題

「発声発語の医学」について反回性呼吸器乳頭腫症の病因と症状を統合するため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 発声に必要な呼気流と声帯振動の関係を説明できる：舌が気管内で振動して音源を作る / 安静呼吸時と発声時の声帯位置を区別できる：声帯は食道入口部を塞ぐ

イ： 反回性呼吸器乳頭腫症の病因と症状を統合する：ヒトパピローマウイルス（HPV）6型・11型 / 声・発話・言語を医学的に区別できる：声は声帯振動による音、発話は構音器官で音を形作る運動、言語は意味を共有する規則体系である

ウ： 嚔声の医学的評価が必要な状況を整理する：喉頭疾患の有無を確認するため医師の評価を受ける / 声帯麻痺の症状を整理する：両眼の視力低下だけ

エ： 声帯麻痺で誤嚥リスクが高まる機序を説明できる：声帯麻痺により唾液が完全に消失するため / 痙攣性発声障害の内転型を整理する：締めつけられたような努力性・絞扼性の声

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 舌は主に構音に関与し、気管内で音源を作るわけではない。 声帯は喉頭内にあり食道入口部そのものではない。

イ： とも正しい。 反回性呼吸器乳頭腫症は主にHPV6型・11型に関連する。 NIDCDはvoice、speech、languageを異なる機能として区別している。

ウ： は正しいが に誤りがある。 声帯麻痺の代表症状ではない。

エ： に誤りがある。 声帯麻痺だけで唾液分泌が完全消失するわけではない。 は正しい。

総合解説：RRPは喉頭に好発し、嚔声を生じ、重症例では気道狭窄を来すことがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0100

音声・言語・聴覚医学 > 発声発語の医学 | 難易度：標準

問題

「発声発語の医学」に関する知識を横断して確認する。声・発話・言語を医学的に区別できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：発声に必要な呼気流と声帯振動の関係を説明できる：肺からの呼気流が喉頭を通り、接近した声帯を振動させて音源を生じる

イ：安静呼吸時と発声時の声帯位置を区別できる：声帯は開いており、気流が気道を通過できる

ウ：嚔声の医学的評価が必要な状況を整理する：喉頭疾患の有無を確認するため医師の評価を受ける

エ：声・発話・言語を医学的に区別できる：声と発話と言語は医学的にも完全に同義である

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。音声は肺からの呼気流によって声帯が振動することで生じる。

イ：この対応は正しい。発声していない安静呼吸時、声帯は開いて呼吸気流を通す。

ウ：この対応は正しい。NIDCDは3週間を超える嚔声などでは医療機関への相談を勧めている。

エ：この対応が誤りである。3者は相互に関係するが異なる概念である。

総合解説：障害評価では音源の問題、運動性発話の問題、言語処理の問題を区別することが重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0101

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：基礎

問題

「聴覚・平衡の医学」の聴覚経路の識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：耳硬化症の病態を整理する：半規管がすべて消失する  
イ：外耳から内耳までの音伝導経路を整理する：ツチ骨・キヌタ骨・アブミ骨からなる耳小骨連鎖  
ウ：突発性感音難聴の緊急性を整理する：聴力低下側に大音量を入れて自己訓練する  
エ：加齢性難聴の典型像を整理する：中耳炎が必ず唯一の原因である

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。耳硬化症の代表病態ではない。  
イ：この対応は適切である。鼓膜の振動は3つの耳小骨を介して蝸牛へ伝えられる。  
ウ：この対応は不適切である。音響曝露で悪化させる危険がある。  
エ：この対応は不適切である。内耳や中枢聴覚路の加齢変化など複数要因が関与する。

総合解説：外耳で集めた音は鼓膜を振動させ、耳小骨を経て内耳蝸牛の機械刺激へ変換される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0102

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：標準

問題

「聴覚・平衡の医学」について耳硬化症の病態を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：突発性感音難聴の緊急性を整理する：突発性感音難聴を含めて考え、速やかに医学的評価を受ける  
イ：加齢性難聴の典型像を整理する：年齢とともに徐々に進行し、両耳に生じることが多い  
ウ：耳硬化症の病態を整理する：鼓膜が必ず完全欠損する  
エ：メニエール病の症候群を統合して判断できる：メニエール病

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。突然の感音難聴は医療上の緊急性があり、診断・治療の遅れで回復機会を失うことがある。  
イ：この対応は正しい。加齢性難聴は一般に緩徐進行性で両側にみられる。  
ウ：この対応が誤りである。必発ではない。  
エ：この対応は正しい。メニエール病は内耳疾患で、めまい、難聴、耳鳴、耳閉感の特徴とする。

総合解説：耳硬化症は中耳の異常骨改築による伝音障害を来し、補聴器や手術が選択されることがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0103

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：基礎

問題

聴覚・平衡の医学の学習で緊急疾患の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：加齢性難聴の典型像を整理する：中耳炎が必ず唯一の原因である  
イ：突発性感音難聴の緊急性を整理する：突発性感音難聴を含めて考え、速やかに医学的評価を受ける  
ウ：メニエール病の症候群を統合して判断できる：耳硬化症だけ  
エ：前庭神経鞘腫の初期症状を整理する：舌の味覚低下だけを示す

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。内耳や中枢聴覚路の加齢変化など複数要因が関与する。  
イ：この対応は適切である。突然の感音難聴は医療上の緊急性があり、診断・治療の遅れで回復機会を失うことがある。  
ウ：この対応は不適切である。耳硬化症では伝音難聴が中心で、この症候の組合せは典型的でない。  
エ：この対応は不適切である。主症状ではない。

総合解説：急速な片側聴力低下は耳閉感・耳鳴・めまいを伴うことがあり、早期受診が重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0104

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：標準

問題

「聴覚・平衡の医学」に関する知識を横断して確認する。加齢性難聴の典型像を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：メニエール病の症候群を統合して判断できる：メニエール病  
イ：加齢性難聴の典型像を整理する：若年期にだけ発症し高齢者には起こらない  
ウ：前庭神経鞘腫の初期症状を整理する：片側または左右差のある感音難聴と耳鳴  
エ：滲出性中耳炎の特徴を整理する：急性炎症症状が目立たなくても中耳に液体が貯留し、聴こえに影響することがある

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。メニエール病は内耳疾患で、めまい、難聴、耳鳴、耳閉感を特徴とする。  
イ：この対応が誤りである。高齢者に多い。  
ウ：この対応は正しい。前庭神経鞘腫は聴覚・平衡神経から生じ、片側性・非対称性の難聴や耳鳴を呈しやすい。  
エ：この対応は正しい。OMEでは感染症状が消失した後も中耳貯留液が残ることがあり、聴力に影響し得る。

総合解説：加齢性難聴では会話、とくに雑音下での聞き取りが難しくなりやすい。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0105

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：応用

問題

「聴覚・平衡の医学」についてメニエール病の症候群を統合して判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 滲出性中耳炎の特徴を整理する：内耳の有毛細胞が必ず不可逆的に全滅する / 平衡機能が多感覚統合で成り立つことを整理する：嗅覚と味覚だけ

イ： メニエール病の症候群を統合して判断できる：メニエール病 / 前庭神経鞘腫の初期症状を整理する：片側または左右差のある感音難聴と耳鳴

ウ： 急性片側難聴の鑑別優先度を判断できる：突発性感音難聴を疑って速やかな耳鼻咽喉科評価につなげる / 非対称難聴から後迷路性病変を判断できる：口腔内写真だけで原因を確定する

エ： 外耳から内耳までの音伝導経路を整理する：舌骨のみ / 耳硬化症の病態を整理する：アブミ骨周囲の異常な骨改築によりアブミ骨の可動性が低下する

0106

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：標準

問題

「聴覚・平衡の医学」について前庭神経鞘腫の初期症状を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：前庭神経鞘腫の初期症状を整理する：両下肢浮腫だけを示す

イ：滲出性中耳炎の特徴を整理する：急性炎症症状が目立たなくても中耳に液体が貯留し、聴こえに影響することがある

ウ：平衡機能が多感覚統合で成り立つことを整理する：前庭、視覚、体性感覚からの情報

エ：急性片側難聴の鑑別優先度を判断できる：突発性感音難聴を疑って速やかな耳鼻咽喉科評価につなげる

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 OMEは主に中耳病変である。 平衡維持の主要3系ではない。

イ： とも正しい。 メニエール病は内耳疾患で、めまい、難聴、耳鳴、耳閉感を特徴とする。 前庭神経鞘腫は聴覚・平衡神経から生じ、片側性・非対称性の難聴や耳鳴を呈しやすい。

ウ： は正しいが に誤りがある。 後迷路性病変の評価には不十分である。

エ： に誤りがある。 中耳の音伝導構造ではない。 は正しい。

総合解説：めまい診療では聴覚症状の有無が病変部位推定に重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。前庭神経鞘腫の代表所見ではない。

イ：この対応は正しい。OMEでは感染症状が消失した後も中耳貯留液が残ることがあり、聴力に影響し得る。

ウ：この対応は正しい。平衡は内耳前庭系だけでなく視覚・体性感覚などの統合で維持される。

エ：この対応は正しい。突然の片側感音難聴は緊急性があり、早期治療ほど回復の可能性を高める。

総合解説：片側性・非対称性聴覚症状に平衡障害を伴う場合、後迷路性病変を含めた評価が必要となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0107

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：基礎

問題

聴覚・平衡の医学の学習で小児耳疾患の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：平衡機能が多感覚統合で成り立つことを整理する：嗅覚と味覚だけ  
イ：急性片側難聴の鑑別優先度を判断できる：無症候性OMEと断定する  
ウ：非対称難聴から後迷路性病変を判断できる：両耳の症状が同程度になるまで検査を待つ  
エ：滲出性中耳炎の特徴を整理する：急性炎症症状が目立たなくても中耳に液体が貯留し、聴こえに影響することがある

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。平衡維持の主要3系ではない。  
イ：この対応は不適切である。成人の突然の感音難聴をOMEだけと決めつけない。  
ウ：この対応は不適切である。片側性・非対称性こそ精査理由となる。  
エ：この対応は適切である。OMEでは感染症状が消失した後も中耳貯留液が残ることがあり、聴力に影響し得る。

総合解説：小児の中耳貯留液は聞き取りや言語環境に影響し得るため、経過と聴覚の確認が重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0108

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：標準

問題

「聴覚・平衡の医学」に関する知識を横断して確認する。平衡機能が多感覚統合で成り立つことを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：平衡機能が多感覚統合で成り立つことを整理する：血糖値だけ  
イ：急性片側難聴の鑑別優先度を判断できる：突発性感音難聴を疑って速やかな耳鼻咽喉科評価につなげる  
ウ：非対称難聴から後迷路性病変を判断できる：前庭神経鞘腫などを念頭に聴覚・平衡検査とMRIを検討する  
エ：外耳から内耳までの音伝導経路を整理する：ツチ骨・キヌタ骨・アブミ骨からなる耳小骨連鎖

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。全身状態は影響し得るが主要な感覚統合系ではない。  
イ：この対応は正しい。突然の片側感音難聴は緊急性があり、早期治療ほど回復の可能性を高める。  
ウ：この対応は正しい。片側性・非対称性難聴、耳鳴、平衡障害は前庭神経鞘腫の警告所見で、MRIが重要である。  
エ：この対応は正しい。鼓膜の振動は3つの耳小骨を介して蝸牛へ伝えられる。

総合解説：めまい・ふらつきは内耳、脳、視覚、筋骨格系、循環など多様な原因で生じる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0109

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：応用

問題

「聴覚・平衡の医学」の急性症例判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 外耳から内耳までの音伝導経路を整理する：視神経のみ / 耳硬化症の病態を整理する：鼓膜が必ず完全欠損する

イ： 突発性感音難聴の緊急性を整理する：突発性感音難聴を含めて考え、速やかに医学的評価を受ける / 加齢性難聴の典型像を整理する：中耳炎が必ず唯一の原因である

ウ： 急性片側難聴の鑑別優先度を判断できる：突発性感音難聴を疑って速やかな耳鼻咽喉科評価につなげる / 非対称難聴から後迷路性病変を判断できる：前庭神経鞘腫などを念頭に聴覚・平衡検査とMRIを検討する

エ： メニエール病の症候群を統合して判断できる：耳硬化症だけ / 前庭神経鞘腫の初期症状を整理する：片側または左右差のある感音難聴と耳鳴

0110

音声・言語・聴覚医学 > 聴覚・平衡の医学 | 難易度：標準

問題

「聴覚・平衡の医学」について非対称難聴から後迷路性病変を判断できるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：外耳から内耳までの音伝導経路を整理する：ツチ骨・キヌタ骨・アブミ骨からなる耳小骨連鎖

イ：非対称難聴から後迷路性病変を判断できる：声帯ストロボスコピーだけで診断する

ウ：耳硬化症の病態を整理する：アブミ骨周囲の異常な骨改築によりアブミ骨の可動性が低下する

エ：突発性感音難聴の緊急性を整理する：突発性感音難聴を含めて考え、速やかに医学的評価を受ける

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 視覚情報を伝える神経である。 必発ではない。

イ： は正しいが に誤りがある。 内耳や中枢聴覚路の加齢変化など複数要因が関与する。

ウ： とも正しい。 突然の片側感音難聴は緊急性があり、早期治療ほど回復の可能性を高める。 片側性・非対称性難聴、耳鳴、平衡障害は前庭神経鞘腫の警告所見で、MRIが重要である。

エ： に誤りがある。 耳硬化症では伝音難聴が中心で、この症候の組合せは典型的でない。 は正しい。

総合解説：突然の聴力低下では発症時期・側性・耳鳴・めまいを確認し、速やかに医学的評価へつなげる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。鼓膜の振動は3つの耳小骨を介して蝸牛へ伝えられる。

イ：この対応が誤りである。喉頭検査で前庭神経鞘腫は診断できない。

ウ：この対応は正しい。耳硬化症ではアブミ骨が固定され、音振動が内耳へ伝わりにくくなる。

エ：この対応は正しい。突然の感音難聴は医療上の緊急性があり、診断・治療の遅れで回復機会を失うことがある。

総合解説：聴覚症状の側性と経過は重要な手がかりで、必要に応じ神経画像を組み合わせる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0111

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：基礎

問題  
神経系の病態・画像の学習で画像検査の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：MRIの画像原理と放射線特性を整理する：必ずX線を回転照射して画像化する
- イ：CTの画像原理を整理する：X線を多方向から照射し、コンピュータで断層像を再構成する
- ウ：脳軟部組織の画像法を整理する：喉頭内視鏡
- エ：fMRIの基本概念を整理する：骨密度だけを測る検査である

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は不適切である。それはCTの原理である。
- イ：この対応は適切である。CTは回転するX線源と検出器のデータから断層像を作る。
- ウ：この対応は不適切である。喉頭を観察する検査で脳実質画像ではない。
- エ：この対応は不適切である。fMRIの目的ではない。

総合解説：CTはX線を用いるため電離放射線曝露がある一方、迅速に断層像を得られる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0112

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：標準

問題  
「神経系の病態・画像」に関する知識を横断して確認する。MRIの画像原理と放射線特性を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：脳軟部組織の画像法を整理する：MRI
- イ：fMRIの基本概念を整理する：課題に伴う脳活動と関連した血流・酸素化変化を利用して活動領域を推定する
- ウ：急性脳卒中中でCTが重視される理由を統合して整理する：頭蓋内出血の有無を迅速に確認し、その後の治療判断につなげるため
- エ：MRIの画像原理と放射線特性を整理する：金属や医療機器の有無を確認する必要はない

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は正しい。MRIは脳や脊髄など非骨性軟部組織の詳細な描出に優れる。
- イ：この対応は正しい。fMRIは認知課題などに伴って活動する脳領域を血液酸素化変化を介して観察する。
- ウ：この対応は正しい。脳卒中は虚血性と出血性で治療が異なり、急性期画像で出血の確認が重要である。
- エ：この対応が誤りである。強磁場のため安全確認が重要である。

総合解説：MRIは脳・脊髄の詳細な軟部組織画像に優れるが、磁性体や植込み機器などの安全確認が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0113

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：基礎

問題

「神経系の病態・画像」の画像モダリティ選択を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：fMRIの基本概念を整理する：骨密度だけを測る検査である  
イ：急性脳卒中CTが重視される理由を統合して整理する：心理検査の信頼性を確認するため  
ウ：MRIが多発性硬化症等の神経疾患評価に用いられることを整理する：単純嚙蝕だけ  
エ：脳軟部組織の画像法を整理する：MRI

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。fMRIの目的ではない。  
イ：この対応は不適切である。神経画像の目的ではない。  
ウ：この対応は不適切である。嚙蝕評価の第一選択は通常MRIではない。  
エ：この対応は適切である。MRIは脳や脊髄など非骨性軟部組織の詳細な描出に優れる。

総合解説：検査選択は臨床目的によって異なり、MRIは脳実質や神経系の詳細評価で重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0114

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：標準

問題

「神経系の病態・画像」についてfMRIの基本概念を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：急性脳卒中CTが重視される理由を統合して整理する：頭蓋内出血の有無を迅速に確認し、その後の治療判断につなげるため  
イ：fMRIの基本概念を整理する：末梢神経伝導速度だけを測る検査である  
ウ：MRIが多発性硬化症等の神経疾患評価に用いられることを整理する：多発性硬化症  
エ：脳転移の定義を整理する：他臓器の原発がんが脳へ広がって形成された腫瘍である

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。脳卒中は虚血性と出血性で治療が異なり、急性期画像で出血の確認が重要である。  
イ：この対応が誤りである。神経伝導検査とは異なる。  
ウ：この対応は正しい。MRIは脳・脊髄の白質病変などを描出し、多発性硬化症の評価に広く用いられる。  
エ：この対応は正しい。脳転移は脳以外に発生したがんが脳へ転移した病変を指す。

総合解説：fMRIは脳機能局在の研究や術前機能評価などに利用される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0115

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：応用

問題  
「神経系の病態・画像」の急性画像の複合判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

- ア： 脳転移の定義を整理する：脳に発生したすべての良性腫瘍を指す / MRI検査前の安全確認を整理する：磁性体の有無は画像に影響しないので確認不要である
- イ： 突然の局在神経症状を脳卒中として認識する：急性脳卒中 / がん既往患者の脳病変を適切に評価できる：がん既往があれば病理・画像所見に関係なく100%脳転移と断定する
- ウ： CTの画像原理を整理する：超音波だけで頭蓋内を常に高精細に描出する / MRIの画像原理と放射線特性を整理する：強い磁場と高周波を利用し、通常のMRI撮像ではX線を使用しない
- エ： 急性脳卒中でCTが重視される理由を統合して整理する：頭蓋内出血の有無を迅速に確認し、その後の治療判断につなげるため / MRIが多発性硬化症等の神経疾患評価に用いられることを整理する：多発性硬化症

答え・解説

正答：エ

- ア： に誤りを含む。 原発性脳腫瘍とは区別される。 安全上重要である。
- イ： は正しいが に誤りがある。 単発病変では他疾患も鑑別する必要がある。
- ウ： に誤りがある。 CTの原理ではない。 は正しい。
- エ： とも正しい。 脳卒中は虚血性と出血性で治療が異なり、急性期画像で出血の確認が重要である。 MRIは脳・脊髄の白質病変などを描出し、多発性硬化症の評価に広く用いられる。

総合解説：突然の局在性神経症状は脳卒中を疑う。画像は出血・虚血の鑑別と治療方針決定に直結する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0116

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：標準

問題  
「神経系の病態・画像」に関する知識を横断して確認する。MRIが多発性硬化症等の神経疾患評価に用いられることを理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：脳転移の定義を整理する：他臓器の原発がんが脳へ広がって形成された腫瘍である
- イ：MRIが多発性硬化症等の神経疾患評価に用いられることを整理する：声帯結節だけ
- ウ：MRI検査前の安全確認を整理する：体内金属や植込み型医療機器の有無とMRI適合性
- エ：突然の局在神経症状を脳卒中として認識する：急性脳卒中

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。脳転移は脳以外に発生したがんが脳へ転移した病変を指す。
- イ：この対応が誤りである。喉頭病変は喉頭内視鏡等が中心である。
- ウ：この対応は正しい。MRIは強力な磁場を使うため、金属・医療機器の安全確認が必要である。
- エ：この対応は正しい。脳卒中は突然の局在性神経症状を呈する救急疾患であり、直ちに評価が必要である。

総合解説：MRIは炎症、脱髄、腫瘍、脳卒中、外傷など多くの中枢神経疾患で有用である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0117

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：基礎

問題

「神経系の病態・画像」の脳腫瘍の知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

- ア：MRI検査前の安全確認を整理する：磁性体の有無は画像に影響しないので確認不要である
- イ：突然の局在神経症状を脳卒中として認識する：歯周炎
- ウ：脳転移の定義を整理する：他臓器の原発がんが脳へ広がって形成された腫瘍である
- エ：がん既往患者の脳病変を適切に評価できる：MRI所見は脳腫瘍評価には一切使わない

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は不適切である。安全上重要である。
- イ：この対応は不適切である。局在性神経脱落症状を説明しない。
- ウ：この対応は適切である。脳転移は脳以外に発生したがんが脳へ転移した病変を指す。
- エ：この対応は不適切である。MRIは脳腫瘍評価で重要である。

**総合解説：**脳腫瘍では原発性か転移性かで診断・治療方針が異なる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0118

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：標準

問題

「神経系の病態・画像」についてMRI検査前の安全確認を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：突然の局在神経症状を脳卒中として認識する：急性脳卒中
- イ：MRI検査前の安全確認を整理する：血液型だけを確認すればよい
- ウ：がん既往患者の脳病変を適切に評価できる：脳転移は重要な鑑別だが、画像・臨床情報を総合して原発性脳腫瘍や他病変も含めて評価する
- エ：CTの画像原理を整理する：X線を多方向から照射し、コンピュータで断層像を再構成する

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。脳卒中は突然の局在性神経症状を呈する救急疾患であり、直ちに評価が必要である。
- イ：この対応が誤りである。MRI安全確認として不十分である。
- ウ：この対応は正しい。がん既往があっても脳病変を自動的に転移と断定せず、臨床・画像を統合して診断する。
- エ：この対応は正しい。CTは回転するX線源と検出器のデータから断層像を作る。

**総合解説：**MRIでは磁場による物体吸引や機器への影響などを避けるため、適合性確認を徹底する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0119

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：応用

問題

神経系の病態・画像の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： CTの画像原理を整理する：脳波をそのまま画像化する / MRIの画像原理と放射線特性を整理する：金属や医療機器の有無を確認する必要はない

イ： 脳軟部組織の画像法を整理する：MRI / fMRIの基本概念を整理する：骨密度だけを測る検査である

ウ： 突然の局在神経症状を脳卒中として認識する：急性脳卒中 / がん既往患者の脳病変を適切に評価できる：脳転移は重要な鑑別だが、画像・臨床情報を総合して原発性脳腫瘍や他病変も含めて評価する

エ： 急性脳卒中中でCTが重視される理由を統合して整理する：心理検査の信頼性を確認するため / MRIが多発性硬化症等の神経疾患評価に用いられることを整理する：多発性硬化症

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 脳波は電気活動の記録である。 強磁場のため安全確認が重要である。

イ： は正しいが に誤りがある。 fMRIの目的ではない。

ウ： とも正しい。 脳卒中は突然の局在性神経症状を呈する救急疾患であり、直ちに評価が必要である。 がん既往があっても脳病変を自動的に転移と断定せず、臨床・画像を統合して診断する。

エ： に誤りがある。 神経画像の目的ではない。 は正しい。

総合解説：脳卒中では症状発症時刻の把握、緊急搬送、画像評価が重要で、治療可能時間を逃さないことが重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0120

音声・言語・聴覚医学 > 神経系の病態・画像 | 難易度：標準

問題

「神経系の病態・画像」に関する知識を横断して確認する。がん既往患者の脳病変を適切に評価できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：CTの画像原理を整理する：X線を多方向から照射し、コンピュータで断層像を再構成する

イ：MRIの画像原理と放射線特性を整理する：強い磁場と高周波を利用し、通常のMRI撮像ではX線を使用しない

ウ：がん既往患者の脳病変を適切に評価できる：脳病変があっても神経症状とは無関係とみなす

エ：脳軟部組織の画像法を整理する：MRI

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。CTは回転するX線源と検出器のデータから断層像を作る。

イ：この対応は正しい。MRIは磁場と高周波を用いて組織の信号を画像化し、電離放射線であるX線を用いない。

ウ：この対応が誤りである。病変部位に応じて局在症状を生じ得る。

エ：この対応は正しい。MRIは脳や脊髄など非骨性軟部組織の詳細な描出に優れる。

総合解説：脳腫瘍評価では原発性・転移性の区別、病変数・位置・造影所見などを総合し、必要に応じ組織診断を行う。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0121

心理学 > 臨床心理 | 難易度：基礎

問題

「臨床心理」の心理療法の知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：心理療法と薬物療法の関係を整理する：心理療法と薬物療法は絶対に併用できない  
イ：心理検査と心理アセスメントを区別できる：検査者の主観だけで結論を出すこと  
ウ：心理療法の一般目的を整理する：症状を軽減し、日常機能や生活の質を維持・向上させる  
エ：規準集団を用いる検査の考え方を整理する：得点の比較対象は不要である

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。併用されることがある。  
イ：この対応は不適切である。客観的資料と専門的解釈が必要である。  
ウ：この対応は適切である。NIMHは心理療法の目的として症状軽減、日常機能、生活の質の改善を挙げている。  
エ：この対応は不適切である。規準参照では比較基準が重要である。

総合解説：心理療法は感情・思考・行動への働きかけを通して、症状と生活機能の改善を目指す。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0122

心理学 > 臨床心理 | 難易度：標準

問題

「臨床心理」について心理療法と薬物療法の関係を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：心理療法と薬物療法の関係を整理する：薬物療法があれば心理療法は常に無意味である  
イ：心理検査と心理アセスメントを区別できる：心理検査だけでなく面接、行動観察、背景情報などを統合して理解する過程を含む  
ウ：規準集団を用いる検査の考え方を整理する：同じ手続きで得た得点を、標準化された集団の得点分布と比較して解釈する  
エ：心理症状に身体疾患が影響し得ることを統合して整理する：心理症状と似た症状を生じる身体疾患や薬剤の影響もあり得るため、必要に応じ医学的評価を行う

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。薬物治療中でも心理療法が有効な場合がある。  
イ：この対応は正しい。心理アセスメントは複数の情報源を統合し、診断や支援計画に用いる。  
ウ：この対応は正しい。標準化・規準参照では統一された手続きと規準集団との比較が重要となる。  
エ：この対応は正しい。気分や集中の変化は身体的要因でも起こり得るため、適切な鑑別が必要である。

総合解説：精神・心理支援では、病態・本人の希望・医学的状況を踏まえて治療方法を選択する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0123

心理学 > 臨床心理 | 難易度：基礎

問題

臨床心理の学習で心理評価の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：規準集団を用いる検査の考え方を整理する：得点の比較対象は不要である  
イ：心理症状に身体疾患が影響し得ることを統合して整理する：身体症状があれば心理的要因は絶対に関係しない  
ウ：心理検査と心理アセスメントを区別できる：心理検査だけでなく面接、行動観察、背景情報などを統合して理解する過程を含む  
エ：CBTの基本的な介入対象を整理する：無意識の夢だけを解釈し他の方法を一切使わない

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。規準参照では比較基準が重要である。  
イ：この対応は不適切である。身体・心理両面の評価が必要なことがある。  
ウ：この対応は適切である。心理アセスメントは複数の情報源を統合し、診断や支援計画に用いる。  
エ：この対応は不適切である。CBTの中心説明ではない。

総合解説：心理検査はアセスメントの一部であり、面接や観察などとの統合が重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0124

心理学 > 臨床心理 | 難易度：標準

問題

「臨床心理」に関する知識を横断して確認する。規準集団を用いる検査の考え方を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：心理症状に身体疾患が影響し得ることを統合して整理する：心理症状と似た症状を生じる身体疾患や薬剤の影響もあり得るため、必要に応じ医学的評価を行う  
イ：規準集団を用いる検査の考え方を整理する：面接情報を一切使ってはならない  
ウ：CBTの基本的な介入対象を整理する：自動的で不正確・有害な思考を検討し、感情や行動との関係を理解して行動パターンを変える  
エ：曝露療法の基本概念を整理する：安全が確保された状況で恐怖対象に段階的に向き合い、恐怖反応の軽減を目指す

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。気分や集中の変化は身体的要因でも起こり得るため、適切な鑑別が必要である。  
イ：この対応が誤りである。臨床アセスメントでは他情報と統合することがある。  
ウ：この対応は正しい。CBTは認知・感情・行動の関連に働きかける心理療法である。  
エ：この対応は正しい。曝露療法はCBTの一種で、支援的環境のもと恐怖刺激への耐性を高める。

総合解説：心理検査の解釈では標準化条件、規準集団、測定誤差、目的への適合性を確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0125

心理学 > 臨床心理 | 難易度：応用

問題

臨床心理の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 曝露療法の基本概念を整理する：恐怖対象を生涯完全に避けるよう強化する / 統合失調症の症状を心理評価で識別できる：難聴と耳鳴だけ

イ： 心理症状に身体疾患が影響し得ることを統合して整理する：心理症状と似た症状を生じる身体疾患や薬剤の影響もあり得るため、必要に応じ医学的評価を行う / CBTの基本的な介入対象を整理する：自動的で不正確・有害な思考を検討し、感情や行動との関係を理解して行動パターンを変える

ウ： 自殺念慮がある患者への安全優先対応を判断できる：安全確保を最優先し、緊急の専門的支援につなげ、安全計画や周囲の支援を活用する / 検査結果を文脈と統合して解釈できる：聴覚障害や言語障害は心理検査に影響しない

エ： 心理療法の一般目的を整理する：患者の意思に関係なく人格を統一すること / 心理療法と薬物療法の関係を整理する：症状や個人の状況に応じ、心理療法を単独または薬物療法と併用することがある

0126

心理学 > 臨床心理 | 難易度：標準

問題

「臨床心理」についてCBTの基本的な介入対象を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：曝露療法の基本概念を整理する：安全が確保された状況で恐怖対象に段階的に向き合い、恐怖反応の軽減を目指す

イ：統合失調症の症状を心理評価で識別できる：幻聴と妄想

ウ：自殺念慮がある患者への安全優先対応を判断できる：安全確保を最優先し、緊急の専門的支援につなげ、安全計画や周囲の支援を活用する

エ：CBTの基本的な介入対象を整理する：聴力閾値を変えるためだけの訓練である

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 回避を固定する方法ではない。 聴覚器疾患の症状である。

イ： とも正しい。 気分や集中の変化は身体的要因でも起こり得るため、適切な鑑別が必要である。 CBTは認知・感情・行動の関連に働きかける心理療法である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 課題理解や応答に影響し得る。

エ： に誤りがある。 適切な心理療法の目的ではない。 は正しい。

総合解説：臨床心理では心理だけに還元せず、生物・心理・社会的要因を含めて把握する姿勢が重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。曝露療法はCBTの一種で、支援的環境のもと恐怖刺激への耐性を高める。

イ：この対応は正しい。幻覚と妄想は統合失調症などでみられる精神病症状である。

ウ：この対応は正しい。具体的な自傷・自殺計画がある場合は緊急性が高く、安全計画と医療・支援への接続が必要である。

エ：この対応が誤りである。心理療法の説明ではない。

総合解説：CBTでは認知の検討、問題解決、行動変容などを用い、症状に応じて構成する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0127

心理学 > 臨床心理 | 難易度：基礎

問題

臨床心理の学習で心理療法の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。ここでは「曝露療法・不安」との関連を手掛かりに整理する。

ア：統合失調症の症状を心理評価で識別できる：難聴と耳鳴だけ  
イ：曝露療法の基本概念を整理する：安全が確保された状況で恐怖対象に段階的に向き合い、恐怖反応の軽減を目指す  
ウ：自殺念慮がある患者への安全優先対応を判断できる：次回予約を数か月後にして様子を見る  
エ：検査結果を文脈と統合して解釈できる：検査の規準集団や妥当性は確認しなくてよい

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。聴覚器疾患の症状である。  
イ：この対応は適切である。曝露療法はCBTの一種で、支援的環境のもと恐怖刺激への耐性を高める。  
ウ：この対応は不適切である。緊急性に対応できない。  
エ：この対応は不適切である。解釈に不可欠である。

総合解説：曝露療法は不安・恐怖に対する回避の悪循環を修正することを目的に用いられる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0128

心理学 > 臨床心理 | 難易度：標準

問題

「臨床心理」に関する知識を横断して確認する。統合失調症の症状を心理評価で識別できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：自殺念慮がある患者への安全優先対応を判断できる：安全確保を最優先し、緊急の専門的支援につなげ、安全計画や周囲の支援を活用する  
イ：検査結果を文脈と統合して解釈できる：検査の信頼性・妥当性、実施条件、教育歴、感覚障害、面接・観察情報などを統合して判断する  
ウ：心理療法の一般目的を整理する：症状を軽減し、日常機能や生活の質を維持・向上させる  
エ：統合失調症の症状を心理評価で識別できる：齲蝕と歯周炎だけ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。具体的な自傷・自殺計画がある場合は緊急性が高く、安全計画と医療・支援への接続が必要である。  
イ：この対応は正しい。心理検査の得点は測定誤差や文脈の影響を受けるため、単独で断定しない。  
ウ：この対応は正しい。NIMHIは心理療法の目的として症状軽減、日常機能、生活の質の改善を挙げている。  
エ：この対応が誤りである。口腔疾患の症状である。

総合解説：心理評価では精神病症状、気分症状、認知症状、安全性などを区別し、必要な医療へつなぐ。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0129心理学 > 臨床心理 | 難易度：応用

問題

「臨床心理」について自殺念慮がある患者への安全優先対応を判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア：心理療法の一般目的を整理する：すべての身体疾患を薬を使わず治癒させること / 心理療法と薬物療法の関係を整理する：薬物療法があれば心理療法は常に無意味である

イ：心理検査と心理アセスメントを区別できる：心理検査だけでなく面接、行動観察、背景情報などを統合して理解する過程を含む / 規準集団を用いる検査の考え方を整理する：得点の比較対象は不要である

ウ：心理症状に身体疾患が影響し得ることを統合して整理する：身体症状があれば心理的要因は絶対に関係しない / CBTの基本的な介入対象を整理する：自動的で不正確・有害な思考を検討し、感情や行動との関係を理解して行動パターンを変える

エ：自殺念慮がある患者への安全優先対応を判断できる：安全確保を最優先し、緊急の専門的支援につなげ、安全計画や周囲の支援を活用する / 検査結果を文脈と統合して解釈できる：検査の信頼性・妥当性、実施条件、教育歴、感覚障害、面接・観察情報などを統合して判断する

答え・解説正答：エ

ア：に誤りを含む。心理療法の目的を超える。薬物治療中でも心理療法が有効な場合がある。

イ：は正しいがに誤りがある。規準参照では比較基準が重要である。

ウ：に誤りがある。身体・心理両面の評価が必要なことがある。は正しい。

エ：とも正しい。具体的な自傷・自殺計画がある場合は緊急性が高く、安全計画と医療・支援への接続が必要である。心理検査の得点は測定誤差や文脈の影響を受けるため、単独で断定しない。

総合解説：自殺リスクでは計画・手段・意図・保護因子を確認し、緊急度に応じた安全確保を行う。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0130心理学 > 臨床心理 | 難易度：標準

問題

「臨床心理」について検査結果を文脈と統合して解釈できるように関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：心理療法の一般目的を整理する：症状を軽減し、日常機能や生活の質を維持・向上させる

イ：心理療法と薬物療法の関係を整理する：症状や個人の状況に応じ、心理療法を単独または薬物療法と併用することがある

ウ：検査結果を文脈と統合して解釈できる：低得点なら原因に関係なく認知症と断定する

エ：心理検査と心理アセスメントを区別できる：心理検査だけでなく面接、行動観察、背景情報などを統合して理解する過程を含む

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。NIMHは心理療法の目的として症状軽減、日常機能、生活の質の改善を挙げている。

イ：この対応は正しい。治療計画は疾患・症状・本人のニーズに応じ個別化される。

ウ：この対応が誤りである。単一得点だけでは診断できない。

エ：この対応は正しい。心理アセスメントは複数の情報源を統合し、診断や支援計画に用いる。

総合解説：言語聴覚領域ではコミュニケーション障害が心理検査成績に及ぼす影響も考慮し、妥当な解釈を行う。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0131

心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：基礎

問題

生涯発達心理の学習で発達概念の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：乳幼児発達の主要領域を整理する：聴力だけ  
イ：愛着の基本概念を整理する：身体的成長率と同義である  
ウ：思春期の心理社会的課題を整理する：思考は必ず具体的思考だけに限定される  
エ：発達を生涯的・多領域的過程として整理する：身体、認知、社会・心理など複数の領域が相互に関係しながら生涯を通じて変化する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。重要だが発達全領域を代表しない。  
イ：この対応は不適切である。成長と愛着は異なる。  
ウ：この対応は不適切である。思春期には抽象的思考が発達する。  
エ：この対応は適切である。人間発達とは身体・認知・心理社会的変化が相互作用する生涯的過程である。

総合解説：生涯発達では年齢段階だけでなく、個人差と環境との相互作用を考える。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0132

心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：標準

問題

「生涯発達心理」に関する知識を横断して確認する。乳幼児発達の主要領域を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：乳幼児発達の主要領域を整理する：歯数だけ  
イ：愛着の基本概念を整理する：養育者との関係の中で安全・保護を得るために形成される情緒の結びつきである  
ウ：思春期の心理社会的課題を整理する：自我同一性を模索し、家族からの自立を進め、抽象的思考が発達する  
エ：Erikson理論を発達段階と対応づけられる：基本的信頼 対 不信

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。発達の一部の身体所見にすぎない。  
イ：この対応は正しい。愛着は乳児が養育者との関係から安全感を得るための重要な関係性である。  
ウ：この対応は正しい。思春期はアイデンティティ、自律性、抽象的思考が発達する時期である。  
エ：この対応は正しい。Eriksonは乳児期の課題をtrust versus mistrustとした。

総合解説：言語発達は他の認知・社会性・運動発達と相互に関係するため、多面的評価が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0133

心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：基礎

問題

「生涯発達心理」の愛着の知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：思春期の心理社会的課題を整理する：思考は必ず具体的思考だけに限定される  
イ：Erikson理論を発達段階と対応づけられる：世代性 対 停滞  
ウ：Erikson理論の思春期課題を整理する：基本的信頼 対 不信  
エ：愛着の基本概念を整理する：養育者との関係の中で安全・保護を得るために形成される情緒的結びつきである

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。思春期には抽象的思考が発達する。  
イ：この対応は不適切である。主に中年期の課題である。  
ウ：この対応は不適切である。乳児期の課題である。  
エ：この対応は適切である。愛着は乳児が養育者との関係から安全感を得るための重要な関係性である。

総合解説：安定した養育者との関係は乳幼児期の社会・情緒発達と関連する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0134

心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：標準

問題

「生涯発達心理」について思春期の心理社会的課題を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：Erikson理論を発達段階と対応づけられる：基本的信頼 対 不信  
イ：Erikson理論の思春期課題を整理する：自我同一性 対 役割混乱  
ウ：正常加齢に伴う記憶変化を整理する：新しい情報を覚えるのに以前より時間がかかることがある  
エ：思春期の心理社会的課題を整理する：乳児期より依存が一方向に強まり自立が低下するだけ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。Eriksonは乳児期の課題をtrust versus mistrustとした。  
イ：この対応は正しい。思春期は自分が何者かというアイデンティティ形成が中心となる。  
ウ：この対応は正しい。高齢者では新しい情報の学習や想起に時間を要する軽度変化がみられることがある。  
エ：この対応が誤りである。自律性の発達が進む。

総合解説：思春期は身体的成熟だけでなく、認知・情緒・社会関係の再編が進む時期である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0135

心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：応用

問題

「生涯発達心理」についてErikson理論を発達段階と対応づけられるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 正常加齢に伴う記憶変化を整理する：年齢とともに記憶機能は全員完全に消失する / 乳幼児期の学習環境の意義を整理する：文字学習だけが重要で対人関係は発達に関係しない

イ： 加齢による物忘れと認知症を症例から区別できる：正常加齢に伴う軽度の物忘れの範囲である可能性があり、生活機能の変化も含め経過をみる / 発達を遺伝と環境の相互作用として整理する：発達は環境だけで決まり生物学的要因は無関係である

ウ： Erikson理論を発達段階と対応づけられる：基本的信頼 対 不信 / Erikson理論の思春期課題を整理する：自我同一性 対 役割混乱

エ： 発達を生涯的・多領域的過程として整理する：発達は身体面だけを指し心理社会面を含まない / 乳幼児発達の主要領域を整理する：粗大運動、微細運動、言語、認知、社会・情緒

0136

心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：標準

問題

「生涯発達心理」に関する知識を横断して確認する。Erikson理論の思春期課題を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：正常加齢に伴う記憶変化を整理する：新しい情報を覚えるのに以前より時間がかかることがある

イ：乳幼児期の学習環境の意義を整理する：言語、認知、対人関係などの基礎を形成し、その後の学習にも影響し得る

ウ：Erikson理論の思春期課題を整理する：自律性 対 恥・疑惑

エ：加齢による物忘れと認知症を症例から区別できる：正常加齢に伴う軽度の物忘れの範囲である可能性があり、生活機能の変化も含め経過をみる

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 正常加齢の説明ではない。 社会的経験も重要である。

イ： は正しいが に誤りがある。 遺伝・神経発達なども関与する。

ウ： とともに正しい。 Eriksonは乳児期の課題をtrust versus mistrustとした。 思春期は自分が何者かというアイデンティティ形成が中心となる。

エ： に誤りがある。 複数領域を含む。 は正しい。

総合解説：Erikson理論では生涯を8段階に分け、各時期の心理社会的課題を示す。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。高齢者では新しい情報の学習や想起に時間を要する軽度変化がみられることがある。

イ：この対応は正しい。早期の学習経験は学校期以降の学習や健康・社会性に長期的な影響を持ち得る。

ウ：この対応が誤りである。幼児期初期の課題である。

エ：この対応は正しい。正常加齢では軽度の想起困難があり得るが、日常生活機能は保たれることが多い。

総合解説：思春期には価値観、役割、将来像を探索し、自己同一性を形成していく。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0137

心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：基礎

問題

「生涯発達心理」の加齢変化の知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：乳幼児期の学習環境の意義を整理する：文字学習だけが重要で対人関係は発達に関係しない  
イ：加齢による物忘れと認知症を症例から区別できる：この情報だけで認知症と確定する  
ウ：正常加齢に伴う記憶変化を整理する：新しい情報を覚えるのに以前より時間がかかることがある  
エ：発達を遺伝と環境の相互作用として整理する：発達は遺伝だけで完全に決まり経験は無関係である

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。社会的経験も重要である。  
イ：この対応は不適切である。日常生活機能や認知評価など追加情報が必要である。  
ウ：この対応は適切である。高齢者では新しい情報の学習や想起に時間を要する軽度変化がみられることがある。  
エ：この対応は不適切である。環境や経験も重要である。

総合解説：軽度の物忘れは正常加齢でもみられるが、日常生活障害を伴う場合は認知症などを評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0138

心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：標準

問題

「生涯発達心理」について乳幼児期の学習環境の意義を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：加齢による物忘れと認知症を症例から区別できる：正常加齢に伴う軽度の物忘れの範囲である可能性があり、生活機能の変化も含め経過をみる  
イ：発達を遺伝と環境の相互作用として整理する：遺伝的・生物学的要因と、養育・学習・社会環境などが相互に作用する  
ウ：発達を生涯的・多領域的過程として整理する：身体、認知、社会・心理など複数の領域が相互に関係しながら生涯を通じて変化する  
エ：乳幼児期の学習環境の意義を整理する：学習は学校入学後に初めて始まる

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。正常加齢では軽度の想起困難があり得るが、日常生活機能は保たれることが多い。  
イ：この対応は正しい。発達は単一因子ではなく、生物学と環境の相互作用により進む。  
ウ：この対応は正しい。人間発達は身体・認知・心理社会的変化が相互作用する生涯的過程である。  
エ：この対応が誤りである。乳幼児期から学習は進む。

総合解説：発達は生物学的成熟と経験の相互作用で進み、早期支援は重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0139心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：応用

問題

「生涯発達心理」の高齢者発達の症例判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 発達を生涯的・多領域的過程として整理する：発達は出生後1年で完了する / 乳幼児発達の主要領域を整理する：歯数だけ

イ： 加齢による物忘れと認知症を症例から区別できる：正常加齢に伴う軽度の物忘れの範囲である可能性があり、生活機能の変化も含め経過をみる / 発達を遺伝と環境の相互作用として整理する：遺伝的・生物学的要因と、養育・学習・社会環境などが相互に作用する

ウ： 愛着の基本概念を整理する：養育者との関係の中で安全・保護を得るために形成される情緒的結びつきである / 思春期の心理社会的課題を整理する：思考は必ず具体的思考だけに限定される

エ： Erikson理論を発達段階と対応づけられる：世代性 対 停滞 / Erikson理論の思春期課題を整理する：自我同一性 対 役割混乱

0140心理学 > 生涯発達心理 | 難易度：標準

問題

「生涯発達心理」に関する知識を横断して確認する。発達を遺伝と環境の相互作用として理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：発達を生涯的・多領域的過程として整理する：身体、認知、社会・心理など複数の領域が相互に関係しながら生涯を通じて変化する

イ：乳幼児発達の主要領域を整理する：粗大運動、微細運動、言語、認知、社会・情緒

ウ：愛着の基本概念を整理する：養育者との関係の中で安全・保護を得るために形成される情緒的結びつきである

エ：発達を遺伝と環境の相互作用として整理する：発達領域は互いに独立し相互作用しない

答え・解説正答：イ

ア： に誤りを含む。 発達はその後も継続する。 発達の一部の身体所見にすぎない。

イ： とも正しい。 正常加齢では軽度の想起困難があり得るが、日常生活機能は保たれることが多い。 発達は単一因子ではなく、生物学と環境の相互作用により進む。

ウ： は正しいが に誤りがある。 思春期には抽象的思考が発達する。

エ： に誤りがある。 主に中年期の課題である。 は正しい。

総合解説：認知症では記憶だけでなく言語、判断、注意などが障害され、日常生活に支障を来すことが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：エ

ア： この対応は正しい。人間発達は身体・認知・心理社会的変化が相互作用する生涯的過程である。

イ： この対応は正しい。子どもの発達は運動、言語、認知、社会情緒など複数領域で評価する。

ウ： この対応は正しい。愛着は乳児が養育者との関係から安全感を得るための重要な関係性である。

エ： この対応が誤りである。言語・認知・社会性などは相互に影響する。

総合解説：言語聴覚領域では子どもの特性だけでなく、家族・学校・社会環境を含めて発達を理解する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0141

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：基礎

問題

「学習・認知・心理測定」の学習理論の知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：古典的条件づけの基本原理を整理する：もともと中性だった刺激が無条件刺激と反復して対提示され、その刺激だけで反応を引き起こすようになる  
イ：オペラント条件づけの基本原理を整理する：過去の記憶をMRIで可視化する手続きである  
ウ：正の強化を具体例で識別できる：行動後の結果を一切与えず頻度変化も評価しない  
エ：短期記憶の特徴を整理する：情報を保持せず入力直後に必ず消失する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。古典的条件づけは刺激間の関連学習によって条件反応が成立する。  
イ：この対応は不適切である。条件づけではない。  
ウ：この対応は不適切である。正の強化の定義を満たさない。  
エ：この対応は不適切である。短時間の保持機能がある。

総合解説：古典的条件づけでは刺激と刺激の連合、オペラント条件づけでは行動と結果の関係が中心となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0142

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：標準

問題

「学習・認知・心理測定」についてオペラント条件づけの基本原理を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：正の強化を具体例で識別できる：望ましい発話行動の直後にほめることで、その発話行動が増える  
イ：オペラント条件づけの基本原理を整理する：中性刺激と無条件刺激の対提示だけで成立する  
ウ：短期記憶の特徴を整理する：限られた量の情報を比較的短時間、一時的に保持する  
エ：長期記憶の下位分類を統合して整理する：宣言記憶には意味記憶とエピソード記憶が含まれ、手続き記憶は技能などに関わる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。正の強化は行動後に好ましい刺激を提示し、その行動の頻度を高める。  
イ：この対応が誤りである。これは古典的条件づけの中心である。  
ウ：この対応は正しい。短期記憶は限られた情報を短時間保持するシステムである。  
エ：この対応は正しい。長期記憶には宣言的記憶と手続き記憶などがあり、宣言記憶は意味・エピソード記憶に分けられる。

総合解説：強化は行動頻度を増やす方向、罰は減らす方向に働く概念である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0143

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：基礎

問題

学習・認知・心理測定の学習で行動学習の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：短期記憶の特徴を整理する：情報を保持せず入力直後に必ず消失する
- イ：長期記憶の下位分類を統合して整理する：エピソード記憶は一般的な単語の意味だけを指す
- ウ：意味記憶とエピソード記憶を区別できる：手続き記憶
- エ：正の強化を具体例で識別できる：望ましい発話行動の直後にほめることで、その発話行動が増える

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は不適切である。短時間の保持機能がある。
- イ：この対応は不適切である。一般知識は意味記憶である。
- ウ：この対応は不適切である。技能や習慣に関する記憶である。
- エ：この対応は適切である。正の強化は行動後に好ましい刺激を提示し、その行動の頻度を高める。

総合解説：強化を考えるときは『何を与えたか』だけでなく、その結果として行動が増えたかを確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0144

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：標準

問題

「学習・認知・心理測定」に関する知識を横断して確認する。短期記憶の特徴を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：長期記憶の下位分類を統合して整理する：宣言記憶には意味記憶とエピソード記憶が含まれ、手続き記憶は技能などに関わる
- イ：意味記憶とエピソード記憶を区別できる：意味記憶
- ウ：心理検査の標準化を整理する：実施・採点などの手続きを一定にし、得点を比較可能にするための条件を整える
- エ：短期記憶の特徴を整理する：一度記憶すれば生涯絶対に失われない

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は正しい。長期記憶には宣言的記憶と手続き記憶などがあり、宣言記憶は意味・エピソード記憶に分けられる。
- イ：この対応は正しい。事実・概念・単語の意味など一般的知識は意味記憶に分類される。
- ウ：この対応は正しい。標準化は受検者間・実施者間で手続きをそろえ、妥当な比較を可能にする基盤となる。
- エ：この対応が誤りである。長期記憶でも忘却は起こり得る。

総合解説：短期記憶は注意と密接に関係し、情報の一時保持と処理に重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0145

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：応用

問題

「学習・認知・心理測定」の記憶分類の複合判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 心理検査の標準化を整理する：受検者ごとに設問や説明を自由に変更する / 信頼性の概念を整理する：検査の見た目が専門的であること

イ： 長期記憶の下位分類を統合して整理する：宣言記憶には意味記憶とエピソード記憶が含まれ、手続き記憶は技能などに関わる / 意味記憶とエピソード記憶を区別できる：意味記憶

ウ： 妥当性を検査用途と結びつけて判断できる：信頼性は高い可能性があるが、目的とする解釈の妥当性は別に検討する必要がある / 信頼性と妥当性を統合して検査選択できる：標準化検査なら失語の影響は必ずゼロになる

エ： 古典的条件づけの基本原則を整理する：記憶を意図的にすべて消去する / オペラント条件づけの基本原則を整理する：行動の結果として生じる強化や罰が、その後の行動頻度に影響する

0146

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：標準

問題

「学習・認知・心理測定」について意味記憶とエピソード記憶を区別するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：意味記憶とエピソード記憶を区別できる：感覚受容器そのもの

イ：心理検査の標準化を整理する：実施・採点などの手続きを一定にし、得点を比較可能にするための条件を整える

ウ：信頼性の概念を整理する：同じ構成概念を同様の条件で測定したとき、得点がどの程度一貫して得られるかに関する性質

エ：妥当性を検査用途と結びつけて判断できる：信頼性は高い可能性があるが、目的とする解釈の妥当性は別に検討する必要がある

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 比較可能性を損なう。 信頼性の定義ではない。

イ： とも正しい。 長期記憶には宣言的記憶と手続き記憶などがあり、宣言記憶は意味・エピソード記憶に分けられる。 事実・概念・単語の意味など一般的知識は意味記憶に分類される。

ウ： は正しいが に誤りがある。 言語要求が高い課題では失語の影響を受け得る。

エ： に誤りがある。 条件づけの定義ではない。 は正しい。

総合解説：記憶障害を評価するときは、保持時間だけでなく記憶内容・意識性による分類も重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。記憶分類ではない。

イ：この対応は正しい。標準化は受検者間・実施者間で手続きをそろえ、妥当な比較を可能にする基盤となる。

ウ：この対応は正しい。信頼性は測定の精度・一貫性と関連し、測定誤差の大きさを考える上で重要である。

エ：この対応は正しい。信頼性は一貫性、妥当性は特定用途の得点解釈を証拠と理論がどれだけ支持するかという別概念である。

総合解説：意味記憶とエピソード記憶はいずれも宣言記憶に含まれる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0147

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：基礎

問題

学習・認知・心理測定の学習で心理測定の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：信頼性の概念を整理する：検査の見た目が専門的であること  
イ：妥当性を検査用途と結びつけて判断できる：妥当性が低ければ得点の再現性は必ずゼロになる  
ウ：心理検査の標準化を整理する：実施・採点などの手続きを一定にし、得点を比較可能にするための条件を整える  
エ：信頼性と妥当性を統合して検査選択できる：失語がある場合はすべての心理評価が不可能である

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。信頼性の定義ではない。  
イ：この対応は不適切である。両者は関連するが同一概念ではない。  
ウ：この対応は適切である。標準化は受検者間・実施者間で手続きをそろえ、妥当な比較を可能にする基盤となる。  
エ：この対応は不適切である。非言語課題や適切な手続きで評価できることがある。

総合解説：心理測定では標準化、規準、信頼性、妥当性を区別して理解する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0148

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：標準

問題

「学習・認知・心理測定」に関する知識を横断して確認する。信頼性の概念を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：信頼性の概念を整理する：測定したい概念と無関係でも得点が高ければ高いほど信頼性が高い  
イ：妥当性を検査用途と結びつけて判断できる：信頼性は高い可能性があるが、目的とする解釈の妥当性は別に検討する必要がある  
ウ：信頼性と妥当性を統合して検査選択できる：検査の信頼性・妥当性に加え、言語理解や発話障害が得点に与える影響を考慮して選択・解釈する  
エ：古典的条件づけの基本原則を整理する：もともと中性だった刺激が無条件刺激と反復して対提示され、その刺激だけで反応を引き起こすようになる

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。得点の高さと信頼性は別概念である。  
イ：この対応は正しい。信頼性は一貫性、妥当性は特定用途の得点解釈を証拠と理論がどれだけ支持するかという別概念である。  
ウ：この対応は正しい。心理測定特性が良好でも、対象者の障害特性と検査要求が合わなければ得点解釈が歪む可能性がある。  
エ：この対応は正しい。古典的条件づけは刺激間の関連学習によって条件反応が成立する。

総合解説：信頼性には再検査信頼性、内的一貫性、評定者間信頼性など複数の観点がある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0149

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：応用

問題

学習・認知・心理測定の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

- ア： 古典的条件づけの基本原理を整理する：MRIで脳活動を測るだけで学習が成立する / オペラント条件づけの基本原理を整理する：中性刺激と無条件刺激の対提示だけで成立する
- イ： 正の強化を具体例で識別できる：望ましい発話行動の直後にほめることで、その発話行動が増える / 短期記憶の特徴を整理する：情報を保持せず入力直後に必ず消失する
- ウ： 長期記憶の下位分類を統合して整理する：エピソード記憶は一般的な単語の意味だけを指す / 意味記憶とエピソード記憶を区別できる：意味記憶
- エ： 妥当性を検査用途と結びつけて判断できる：信頼性は高い可能性があるが、目的とする解釈の妥当性は別に検討する必要がある / 信頼性と妥当性を統合して検査選択できる：検査の信頼性・妥当性に加え、言語理解や発話障害が得点に与える影響を考慮して選択・解釈する

答え・解説

正答：エ

- ア： に誤りを含む。 画像測定そのものは条件づけではない。 これは古典的条件づけの中心である。
- イ： は正しいが に誤りがある。 短時間の保持機能がある。
- ウ： に誤りがある。 一般知識は意味記憶である。 は正しい。
- エ： とも正しい。 信頼性は一貫性、妥当性は特定用途の得点解釈を証拠と理論がどれだけ支持するかという別概念である。 心理測定特性が良好でも、対象者の障害特性と検査要求が合わなければ得点解釈が歪む可能性がある。

総合解説：検査を使う際は『この得点をこの目的で解釈してよいか』という妥当性証拠を確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0150

心理学 > 学習・認知・心理測定 | 難易度：標準

問題

「学習・認知・心理測定」について信頼性と妥当性を統合して検査選択できるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：古典的条件づけの基本原理を整理する：もともと中性だった刺激が無条件刺激と反復して対提示され、その刺激だけで反応を引き起こすようになる
- イ：信頼性と妥当性を統合して検査選択できる：検査名が有名なら対象者への適合性を確認しなくてよい
- ウ：オペラント条件づけの基本原理を整理する：行動の結果として生じる強化や罰が、その後の行動頻度に影響する
- エ：正の強化を具体例で識別できる：望ましい発話行動の直後にほめることで、その発話行動が増える

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。古典的条件づけは刺激間の関連学習によって条件反応が成立する。
- イ：この対応が誤りである。対象集団・目的への妥当性が必要である。
- ウ：この対応は正しい。オペラント条件づけでは行動とその結果の随伴関係を学習する。
- エ：この対応は正しい。正の強化は行動後に好ましい刺激を提示し、その行動の頻度を高める。

総合解説：言語聴覚士は検査得点を障害特性・感覚・運動・言語要求と照合し、過大・過小評価を避ける。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08